



ステップ2 壁率を計算します

- 壁とは、床から天井まであるものをいい、途中に窓が壁とみなしません。
 - 壁の長さが0.5間に満たないものは壁の長さに入れず
 - 「壁の全長」を計算します。この場合よこの方向（桁別）に合計し、少ない方を「壁の全長」とします。
 - 見かけの壁率(e)は $\frac{\text{壁の全長(間)}}{\text{1階の建築面積(坪)}}$ によって計算
- ※計算例 1階部分の面積 22.0坪、少ない方の壁の全長 11.5
 $11.5 \div 22.0 = 0.522$
 小数点第3位を四捨五入して、見かけの壁率は

ステップ3 自家耐震カルテに記入し

項目	評価	良い	普通	悪い	評価
a 構造	耐力壁式	1.2	1.0	0.9	構造
	大黒柱式	0.9	0.8	0.6	
b 階数	壁積層材	軽い	重い		壁積層材
	階数	平家	1.2	1.0	
c 開口	2階連	0.8	0.7		開口
	4隅に壁	1.0			
d 開口	1隅が両方向とも開口	0.9			開口
	1面全開口・2隅が両方向開口	0.8			
e 筋かい	筋かい有り	1.5			筋かい
	筋かいなし	1.0			
f 見かけの壁率	見かけの壁率が0.05未満	0.2			見かけの壁率
	0.05以上0.15未満	0.4			
	0.15以上0.25未満	0.7			
	0.25以上0.35未満	1.0			
	0.35以上0.45未満	1.3			
g 増築	0.45以上0.55未満	1.7			増築
	0.55以上0.65未満	2.2			
	0.65以上	3.0			
h 増築せず	1階のみ増築	0.9			増築
	2階を増築	0.8			
i 老朽化	老朽化していない	1.0			老朽化
	腐蝕著しい	0.8			

総合評価点 $E = a \times b \times c \times d \times e \times f \times g$

バランスよく設置された壁
軽量の屋根／堅固な基礎

阪神・淡路大震災に学ぶ耐震要素

被災地では、建物の被害にどのような傾向があったのでしょうか。民間応急危険度判定士として、県の派遣要請を受けて判定業務に参加した県建築士会副会長の遠藤泰治さんに、具体的な様子をレポートしてもらいました。

被災地では、建物の被害にどのような傾向があったのでしょうか。民間応急危険度判定士として、県の派遣要請を受けて判定業務に参加した県建築士会副会長の遠藤泰治さんに、具体的な様子をレポートしてもらいました。

長田消防署西側の調査担当地域では、古い木造の立ち並んだ街はほとんど物が倒壊していた。一階が店舗で二階が住宅の長屋が多いようだ。新築の二階建て店舗住宅が一階が倒壊して二階が無傷の状態で一見平屋のように見えていたのが異様な風景だった。

一階店舗の木造建物は開口部をどうしても大きく必要とするため、開口方向の壁が少なく、被害を増大したものである。壁が設置出来ない場合は鉄骨等で



これまでの地震では見られなかった倒れ方の家(上)、中央の家は持ちこたえた(中)、筋かいが露出した建物(下)

だけの地震によく耐えたと力強く映った。

自分は自身で守らなければならない。これは、災害時の鉄則である。身の安全を守って、くれる住宅は一瞬で倒壊してはならない。

木造住宅の耐震要素は第一に壁だ。バランスよく設置された壁、軽量の屋根、支持地盤に適合した堅固な基礎等が設計された。これに従った施工があれば、倒壊は避けられるだろう。

建築後ある年数が経過した建物は土台の腐れ、白蟻の被害等

が生じている恐れがある。定期的な点検を推奨したい。神戸の被災建物に、これらの現象が見られ、それが原因で被害を大きくしたものと判断されている。

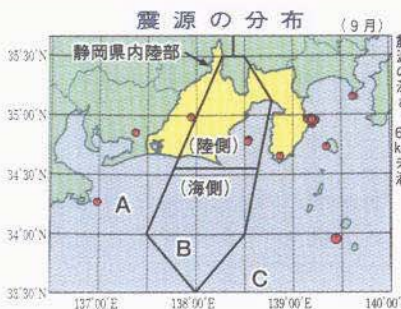
県が作製した木造建築物の自己耐震診断の方法はだれでも簡単に耐震診断が出来るので、是非実行されるようお願ひしたい。また、この方法は新築を計画している場合でも、平面図ができた時点で耐震診断を行うことが参考になる。

診断数値が不足の場合は、奥中町村の窓口で、専門家に

精密耐震診断と診断に基づいての補強改修工事の設計方法の相談ができる体制が整備され、気軽に利用できる。

地震被災建築物応急危険度判定とは、構造強度の低下した被災建築物の余震による二次災害発生を防ぎ、すなわち余震による倒壊又は落下物等より、居住者、利用者の安全確保を図るために設けられた制度。県内からは第一次から第四次まで、各十八人計四十八人が参加した。

診断数値が不足の場合は、奥中町村の窓口で、専門家に

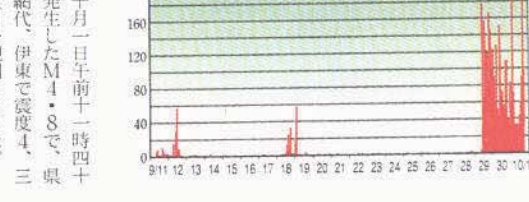


同様に、県警も県警本部と伊東警察署に警戒警備本部を設置、また、伊東市、熱海市、東伊豆町、中伊豆町でも、警戒態勢をとっています。

九月二十九日午前七時から十月五日午後三時までの総地震回数、八千三百六十一回。そのうち有感回数は百四十二回となっています。このうち最大の地震は、

県は、十月四日午後五時に災害対策本部と、熱海、伊豆(下田)、東部(沼津)に支部を設置し、情報収集等を行っています。

化した駿河湾内では、七月に十三回(最大はM3.6)、八月に八回(最大はM3.4)の地震を観測しました。このうち九月に二回、伊豆県庁行政センター(下田)で震度1を観測しました。八月二十一日に開催された地震予知連絡会では、引き続き経過を見守る必要があるとの見解が示されました。



自主防災 築く人の和 地域の輪

12月3日(日)地域防災訓練を実施



突然、大地震が起こった場合に備え各市町村の自主防災組織を中心に地域防災訓練が十二月の第一日曜日「地域防災の日」に実施されます。

各家庭や地域での地震発生後の対応訓練を次の項目に重点をおいて行われます。

- ①家庭内の安全確保対策
- ②津波、山・崖崩れ、延焼火災危険予想地域における避難訓練
- ③中学生、高校生、外国人の参加を得た訓練
- ④夜間における対応訓練
- ⑤地域内の人材の協力を求めた訓練

特に、今年一月十七日の阪神・淡路大震災の被害状況から、自分たちの家庭や地域での地震発生時に想定される被害を具体的にイメージして、時間の経過とともに変化していく状況に對し、その時々での確な行動がとれるように身をもって確認するためシナリオ型訓練を行います。

「自らの命は自らで守る」「自らの地域は皆で守る」という防災の基本に立ち家族全員で防災訓練に参加して、家庭内での対策の見直しや自主防災組織での活動を積極的にいきましょう。

●地震発生!

大地震が発生した場合等には、皆さんにマイカー等の使用を控えていただくとともに、一般車両の通行を禁止し、緊急自動車等を優先通行させ、より多くの被災者を救助・救護しなければなりません。

災害発生時には、肉親・知人の安全や会社の事等が心配になりますが、このような時でも車の使用はやめましょう。あなた自身が身動きがとれなくなり、緊急通行車両の通行を妨害する原因になってしまいます。

◎区域を指定した交通規制
(〇〇市内一円) 〇〇その区域に

●インフォメーション

■地震防災フェア開催
十一月二十三日、地震防災フェア。自主防災活動推進大会が行われます。

- ・日程 十一月二十三日(木)
- (勤労感謝の日)
- ・会場 県地震防災センター(静岡市駒形通五九一)
- ・企画 防災用品展示、非常食試食、地震体験、地震被害想定相談、キャラクターショー、表彰(優良自主防災組織活動個人・団体)、地震防災ポスターコンクール、標語コンクール、記念講演、その他

なお、各市町村でも、月間を通して防災コーナーの開設、地震被害写真パネル展、防災展など、それぞれの地域に応じた各種のイベントが開催されます。

9月1日の総合防災訓練

磐田市中心に大規模型も

今年の合同大規模訓練が磐田市を中心とした6カ所(1市3町1村)で行われました。自主防災組織活動推進委員から各地の様子を報告します。

◆天竜川河川敷メイン会場

高校生三百十六人、小中学生百六人が警察官の誘導で会場に避難して行く。その後、高校生は、可搬式ポンプ操作訓練、放水消火訓練に参加。小中学生は防災教室二階からの脱出訓練、梯子による避難訓練に参加した。西部解体工事場による障害物除去等災害支援訓練、高層ビルからの救出、負傷者医療

◆磐田市今の浦公園会場

今の浦公園会場でも各町内から見学者と一部参加者、高校生等の参加による総合訓練が行われた。

中、高校生もきびきび実践

消防車を使つての消火訓練。三角巾による応急手当で、隣りでは人工呼吸の人々。汗を流しながら、



▲高層ビルからの救出

◆豊岡村会場

磐田会場から北東に十キロ、磐田郡豊岡村北端に位置する万瀬ヘリポートは、標高二百七十七の丘陵地にある。三平方メートルの

沼津市新宿町では、地域主体の防災訓練が行われた。従来の行政指導型でなく、住民意識での地域に密着した訓練である。会場型訓練と異なるもの、病人、けが人の広場から近くの病院への簡易担架搬送、それに併用した救急車の救出救護、倒壊家屋からの救出、交通障害路の打破、町内同時多発火災の可搬ポンプ、パケツリレーなど即対応訓練が盛り込まれていた。

大切なのは、私たち自主防災



▲地域ぐるみの主体的な訓練

◆角ヶ谷昇委員

が發揮された訓練だった。

◆角ヶ谷昇委員

毛布をひいてその上にねぶくろの中に入れておきました。でもあつてねむれませんでした。

◆豊岡村会場

磐田会場から北東に十キロ、磐田郡豊岡村北端に位置する万瀬ヘリポートは、標高二百七十七の丘陵地にある。三平方メートルの

◆角ヶ谷昇委員

が發揮された訓練だった。

◆豊田町立豊田南中学校

八月三十一日、警戒宣言発令を想定して小中学生四十六人、外国人を含む二十世帯、消防団、行政関係者、自衛隊等が参加して、テントで一日の避難生活体験が行われた。夕食後、二班に分かれて煙体験訓練、起震車による地震体験訓練が行われ、起震車に乗るのは初めての経験も多数いた。体育館での防災講座のあと、自衛隊の設置した仮設風呂で入浴、それぞれの家族がテントで一泊を体験した。



▲ヘリポートでの救出訓練



▲豊田南中学校で講座を聞く参加者

体発作文から

清水市立駒越小三年 堀 剛正
ぼくは、お父さんと、兄と三人で参加しました。食事でうひがいをうけた人たちはひじょう食しか食べていないからたいへんなんだな。ぼくは、三日間でもためました。

県地震防災センターでの

避難生活体験訓練に参加して

ペットボトルで作ったテントはペットボトルをさい利用したのですが、あのペットボトルがこのテントになるなんてふしぎだと思いました。ほかの住んでいる静岡県も東海じんがいっこのかわからないので、まちようなはけんになったと思います。



自主防災

地震災害に備えるための
コミュニケーション紙
JISHU-BOUSAI

no. 32

●編集・発行/静岡県自主防災組織活動推進委員会 ●発行所/静岡県地震対策課 TEL.054-221-2019 平成8年(1996年)3月1日

阪神・淡路大震災から1年 あなたのまちは変わりましたか?



予想される東海地震に、私たち県民はどう対処すべきでしょうか。エネルギーの大きさから見ると、阪神・淡路大震災の十六倍とも、二十倍とも言われ大津波も予想されています。阪神・淡路ではわずかに十数秒の揺れで、その再建には何十年もかかり、亡くなった方々は二度と戻りません。何とかなる、何とかしてくれるの甘い考えは捨て去り、「自分の身は自分で守る」という意識を持ちましょう。

これらの初期活動が、地震の被害を最少限に食い止める最重要課題です。そして、県民一人ひとりが助け合う基盤となるのが自主防災組織なのです。大震災を教訓に、近くの病院とタイアップしたり、同時多発火災を想定した訓練が、さまざまな自主防災組織で行われました。企業との連携プレーも浸透させていこうではありませんか。

防炎訓練に参加し、実技や知識を体得し、人間関係を密にして、他人を気遣う心を一層深いものにしてください。「動ける生きた自主防災組織」を目指しましょう。

静岡県には各県庁行政センター管内から九人、日赤から一人で構成する自主防災組織活動推進委員会があります。月例会、研修会等を通じて自主防災組織の活性化について検討し、県へ報告書を提出しています。今年度は「教訓を生かした発災後の対応策」をテーマに、現地を視察、被害を最小限にとどめる対策を論じてきました(「自主防災」新聞

動ける自主防災組織 目指して!

の発行では、広域に情報を集め、県民の皆さんと一緒に頑張ろうと努めています。(岩崎秀美・自主防災組織活動推進委員長)

特集
東海地震・神奈川県西部の地震に備える



TO PROTECT YOUR LIFE IN AN EARTHQUAKE 地震から命を守るために

ブロック塀の点検

●特に通学路・避難路に面している所は補強する

블록 담의 점검

●특히 통학로·피난로에 면해 있는 곳을 보강한다

砌块墙的檢查

●特别是面临儿童上下学所经道路及避难道路的地方需要补强。

Inspección de las paredes de bloques

● Refuerce las paredes de bloques, especialmente aquellas proximas a la ruta de niños escolares y ruta de refugio.

Inspeccion paredes de tijolos

● Reforce paredes de tijolos, de modo especial aquelas proximas da passagem de escolares ou em frente de abrigos comunitários.

Examining Block Walls

● Reinforce any block walls, particularly those along children's school routes and community shelter approaches.



지진에서 생명을 보호하기 위하여 从地震中维护性命的安全 PARA PROTEGER SUA VIDA NUM TERREMOTO Para proteger su vida en un terremoto

平成七年度 地域防災訓練

12月3日県内各地で実施

十二月の第一日曜日は「地域防災の日」。平成七年度の静岡県地域防災訓練が、十二月三日を中心に行われました。阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた訓練は、刻々と変化する状況に対して的確な行動が取れるよう確認する「シナリオ型訓練」が特色。パイルを使って廃材の下から救出する（袋井市）、テントや段ボールでの避難生活を体験する（西伊豆町）など、新しい内容が導入され、注目を集めました。

静岡市

静岡市では百五十三組織による自主防災訓練が十二月三日、各地域で一斉に行われました。東新田スポーツ広場では、長田



炊き出しもスムーズに
＝静岡市の東新田スポーツ広場

公的機関と地域が連携

東学区内十一自主防災会の住民二千二百人が参加し、地域主導で実施されました。陸上自衛隊第34連隊をはじめ、県警、市消防本部などの公的機関と連携した訓練は、地域防災訓練としては初めての試み。自衛隊と地元

の婦人部共同の炊き出しと豚汁づくり、生存者の救出搬送訓練、消防による高層アパートからの負傷者の救出訓練、中央警察署による移動交番の開設訓練、被災地防犯パトロール訓練など多面的に取り組みされました。

視察に訪れた石川県知事は「広域的な救援の手が届くまでの間は、地域住民がお互いに助け合うことを訓練で会得してほしい」と自主防災活動の原点を強調していました。（前田欽吾委員）

舞阪町



三角巾の使い方を学ぶ＝舞阪町で

舞阪町では、八会場に分かれて地域主体の訓練が実施されました。各会場、百人から二百人くらいの人員

小中高生もてきばきと

で、「自らの地域は皆で守る」という意識のもと地域に密着した訓練が行われました。各会場とも、自主防災隊員、住民、小中高生が、各自非常持出袋を背負って避難し、情報伝達訓練、消火器を使った消火訓練、炊き出し訓練、消防職員の指導による三角巾を使った応急救護訓練、可搬ポンプによる放水訓練と、多彩な訓練が繰り広げられました。どの訓練にも、小中高

生が積極的に参加し、活発な姿が印象的でした。ある中学生は、いろいろな訓練を体験できてよかったと感想を述べていました。（小倉清隆町長）

西伊豆町

西伊豆町仁科の築地自主防災会は、十二月二日午後六時五十分、駿河湾を震源とした大地震が突発し、大きな津波によって住居を奪われ、防災センターに避難をしたという想定で、避難生活体験訓練を行いました。

午後七時、区民五十一人が参加し、防災センターでの訓練が始まりました。自主防災会長による神戸市、北淡町の視察報告

非常用持出袋を 倉庫に配布

東伊豆町

東伊豆町は、全戸約五千九百世帯に非常用持出袋を配布しました。災害に対しては、「自らの生命は自ら守る」と

銀行政センター職員の「地震対策三〇〇日アクションプログラム」等の話、続いて「福むらの火」のビデオや「阪神大震災」のスライドの上映。

この後、二十人が、段ボールや机を使って仕切られた部屋（屋内に設営）、屋外のテントで、寝袋にぐるまっって一晩を

段ボールの仕切りで一泊



避難生活の厳しさを体験
＝西伊豆町防災センター

は、広場にカマドを設営し非常食を試食しました。いざという時のために避難生活訓練にも取り組む時期にきたのではなにかという考えを強くしました。（西伊豆町後場防災担当係長・佐野専長）

自主防リーダーが避難生活

東部地区

東部銀行政センターは、十一月十四日から十七日までの四日間、駿東郡、田方郡、沼津市の自主防リーダーによる避難生活訓練を行いました。三グループに分かれ、沼津駅北口で一泊し

日の避難生活を体験しました。県地震防災センターでの暑い盛りの訓練もいることながら、あいにの雨や寒風に見舞われた訓練、深夜、貨物列車の騒音に何度となく目を覚ました。

昼間のリーダー研修、夜のミーティング、朝の駅周辺での危険箇所巡回、地域における防災問題の検討と、発災時の対応策のあり方について、参加者全員が手こたえを感じた訓練でした。東海地震の被害を最少限に抑止しようという誓い、地域に戻りました。（岩崎秀美委員長）

山梨県東部を震源に地震

最近の地震活動概況から



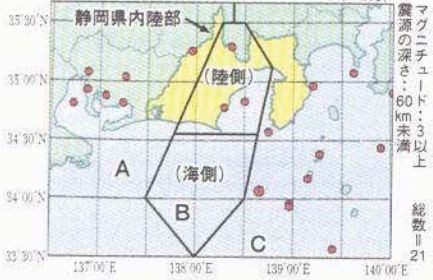
非常用持出袋を配布

この配布は個々の構えに役立つものと確信しています。独り暮らしのお年寄り宅と幼稚園、小中学校の各クラスには、中身として災害用品十万円分を併せて配布しました。（東伊豆町総務課）

三月六日の深夜、山梨県東部を震源とする地震で東部、中部地方を中心に二度、大きな揺れを感じました。関東北部から東海、近畿地方までの広い範囲で強い地震があったのは六日午後十一時三十五分ごろ。河口湖で震度5（強震）、県内では三島で震度4（中震）、網代、石廊崎、下田、静岡、伊東で震度3（弱震）を記録し、沼津市で水道管が破裂するなど被害がありました。気象庁に

よると震源地は山梨県東部で、震源の深さは10.7km。マグニチュード（M）は5.8と推定されています。これに先立つ午後十一時十六分ごろにも関東、東海地方で地震があり、河口湖で震度4、三島などで震度3（中震）を記録。M4.5と推定されています。また、七日午前二時三十三分には余震とみられる地震があり、三島で震度1（微震）を記録しました。静岡地方気象台がまとめた一月と二月の地震活動概況によると、この期間、目立った地震活動はありませんでしたが、二月十七日、日本時間の十四時五十九分にインドネシアのピアク島付近を震源とするM8.1の地震が発生、この地震により発生した津波によって約二十三年ぶりに県内に津波警報が発令され、各地で津波が観測されました。津波の高さは最大で、三島に達し、県内でも御前崎で四六センチ、舞阪で二六センチを観測速報値しました。

震源の分布 (1-2月)



マグニチュード：3以上
震源の深さ：60km未満
総数：21

震源の分布 (1-2月) 静岡県内陸部 (陸側) (海側) A B C

(速報値) 震源の深さ：60km未満

活動リポート

東から

活動に参加しましょう！

●自主防災会とは
昭和四十九年の七夕豪雨をきっかけに自主防災組織の結成が始まり、五十一年の東海地震説の発表を機に一気に気運が高まりました。現在、静岡県内には約五千の組織があります。阪神・淡路大震災では、多くの生き埋め者に対して、近隣の住人に

よる助け合いの救出活動が行われ、あらためて自主防災組織の重要性が認識されました。
●ふだんはどんな活動をするか？
防災知識の普及や、地域の安全確認、家庭の安全点検、防災用資機材の整備点検、防災訓練などをします。

正しい防災の知識を身につけることが第一歩。また、地震の時、注意が必要な危険物はどれか、危険な崖はないか、寝たきりのお年寄りや障害のある人がいないか、消防水利は利用でき



県東部の自主防リーダーが、避難生活を体験
—沼津駅北口で

きるのかなど、地域の安全確認も重要な活動です。防災訓練の積み重ねも大切なことです。
●災害が発生したときの活動は？
助け合って初期消火、出火防止に努める活動を中心に、救出、救助や応急救護活動・避難の手助け・避難所の運営（正しい情報）の収集、市町村役場への連絡、衛生に配慮した生活など、役割を分担し協力して活動を進めます。

●参加したい、組織をつくりたいと思ったら
地域住民の自主的な防災活動も、身近なコミュニティ活動のひとつ。活発な地域ほど、災害に強いと言われています。市町村の防災担当課に問い合わせてください。

淡路島・北淡町を視察して



地震の規模の大きさを物語る野島断層

自主防災組織活動推進委員会は十一月九、十日に、神戸市と北淡町の視察を行いました。大震災から十九月を過ぎて三ノ宮駅へ降り立った印象は、活気に満ちて復興に向かっているように見えました。しかし、カレンキが取り除かれた空き地は、そのままのところが多く見られました。

断層に見る地震の規模

今回は、淡路島へ渡り北淡町に入り、町役場で、町民が団結して被災者の救出に当たったことを聞き、これからの活動に大参考になりました。被災地を歩くといくつ区画整理反対

のヒラが目に入ります。一方で、道路の狭さも感じ、区画整理を進めることもやむを得ないことだと思いました。昔の漁村は、このような道路の狭い町で成り立っている所が多いのです。わ

が町のことも考えさせられました。
(前田玉枝委員)

北淡町では、救出状況がビデオに記録されていました。役場職員の話では、救出活動が迅速になり生き埋めとなった被災者のすべてを救出したそうです。消防団と住民の、密着した連携と信頼関係によって犠牲者を最小限に食い止めたものだと思います。

野島断層の現場では、あらためて規模の大きさに驚きました。東海地震に備えて、救命救急体制やボランティアの受け入れ体制の確立、避難所対策など、早急に見直していかなくてはならない問題ではないかと実感しました。
(小倉清隆副委員長)

地震防災強化月間

11月
多彩なイベントや功績表彰



表彰風景—11月23日県地震防災センター

◆記念講演
神戸市在住の山下昌三さんが記念講演しました。山下さんは約五年前、富士市に在勤していたことがあり、その間に学んだ防災知識や訓練体験が役立ったと話しました。

昭和十九年の東南海地震や宮城県沖地震を経験していた山下さんは、阪神・淡路大震災の揺れがそれらとまったく異なる感じだったと言います。被災の体験をもとに、大きな家具は柱や壁にがっちり止め、おく、二階



石川千昌さんの作品



横川隆人さんの作品



市川弥生さんの作品

- 春野町西領家自主防災会
- 浜松市葵町西自主防災隊
- 個人の部・功績表彰
- 杉山金作（沼津市）
- 渥美金一郎（浜北市）
- 個人の部・褒賞
- 渡辺隆徳（裾野市）
- 石川清（清水市）

- 杉山喜良（金谷町）
- 大石保（浜松市）
- 水野康久仁（浜北市）
- ◆防災局長表彰
- 地震防災標語
- 明石尚之安心は日頃の訓練日頃の備え（総合防災訓練標語）
- 海野欽平「安心を地域につなぐわが家の備え」（地震防災強化月間標語）
- 杉山勇一「自主防災会く人の和地域の輪」（地域防災訓練標語）
- 地震防災ポスター
- 【小学校低学年の部】
- 最優秀賞 石川千晶（静岡市立大里西小学校二年）
- 優秀賞 渡辺拓（加藤学園暁秀初等小学校三年） 山本麻耶（浜松市芳川北小学校三年）
- 【小学校高学年の部】
- 最優秀賞 横川隆人（加藤学園暁秀初等小学校四年）
- 優秀賞 大久保孝一（雨南町立南南小学校四年） 秋山忠啓（富士市立神戸小学校四年）
- 【中学生の部】
- 最優秀賞 市川弥生（静岡市立城山中学校三年）
- 優秀賞 一本なつみ（静岡市立城山中学校一年） 富田明日香（細江町立細江中学校二年）

建ての場合、非常用持出品は一階と二階用に二つ用意する◎水のくみ置き、ラジオや懐中電灯の電池のチェックを怠らないなど日ごろの備えの重要性を訴えました。

このほか◎被災した家には必ず靴を履いて入る（ガラスの破片などで怪我をしないように）◎避難する場合は避難先を書き残す◎避難生活では大小のビニール袋、ウェットティッシュが役立つ一など助言しました。

地震対策 推進条例が 施行されます

4月1日から

安心して暮らせる県づくりを

静岡県地震対策推進条例が4月1日から施行されます。大規模な地震による災害から県民のみなさんの命や財産を守るためには、一人ひとりが自発的、積極的に防災の役割を果たしていくことが重要なカギとなっています。条例は、県と市町村、そして県民自身の役割を明らかにするとともに、地震による災害予防、地震発生後の緊急交通の確保など重要な地震防災のための措置について定めています。地震対策の的確な推進を図り安心して暮らせる地震災害に強い県づくりを行うことを目的としています。

あ・ら・ま・し・
静岡県はこれまで、災害対策基本法、大規模地震対策特別措置法等に基づいて地震防災計画を策定し、地震対策を積極的に推進してきました。しかし、昨年一月の阪神・淡路大震災は、あらためて大地震の脅威を認識させました。大地震が予想される本県にとって、地震対策の充実強化は緊急課題です。これを受けた条例は、七章三十八条で構成されています。一章が目的、二、三章で行政と県民の役割、四章で既存建築物やブロック塀、自動販売機などの耐震性の向上、五章で発災時の緊急交通の確保等、六章では被災した建築物の応急危険度判定について定めています。生活に具体的にかかわる項目について紹介しましょう。

ポイント 行政、県民の 役割明確に

行政と県民のみなさんがそれぞれの役割を果たしながら、地震に対応していくことを明らかにしています。

●家庭では

▽日ごろから地震に関する知識の習得や地震対策に取り組みましょう。

▽家屋の耐震診断、耐震改修、家具の固定、消火器の常備、食料・飲料水の備蓄などの対策を励行してください。

▽地域の危険度、避難の経路、場所、方法などについても家族で話し合います。

▽地震が発生したときは、協力して冷静に行動しましょう。

▽防災訓練、研修などに積極的に参加し、自主防災組織の活動に参画してください。



的に参加し、自主防災組織の活動に参画してください。

▽防災のための資機材を整備するよう努めます。

●自主防災組織では
▽実践的で効果的な防災訓練を実施してください。

▽地震による地域の危険度や住民の居住状況など、地域の現状を十分に把握します。

●事業所では
▽地震対策の責任者を決め、

一人ひとりが役割持って被害軽減

従業員のとるべき行動を明確にしてください。

▽施設・設備の耐震性の確保など安全対策を進めます。

▽食料、飲料水の備蓄、資機材の整備に努めます。

▽地域の防災訓練に積極的に参加、協力してください。

●県、市町村などでは

▽組織、機能を挙げて地震防災に万全の措置を講じるとともに、地域防災計画等に基づく地震対策を確実に実施します。

▽県民の防災意識を高め、防災行動力の向上に努めます。

▽自主防災組織の育成、活動の充実を支援します。

▽津波や山・崖崩れ、建築物の倒壊、火災による被害の予想される地域を明らかにし、周知に努めます。

▽他の公共団体等との応援体制、協力体制を推進します。

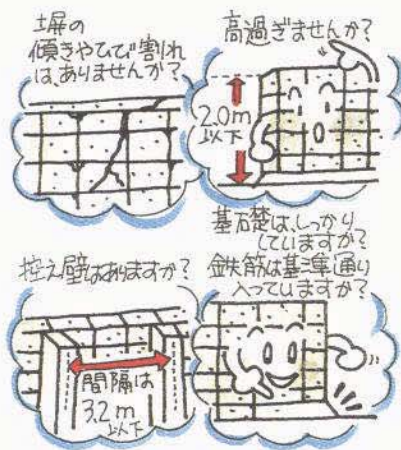
ポイント ブロック塀の 点検、補強

◆ブロック塀の耐震対策

基準通り基礎、控え壁は造られていますか。鉄筋が入っているでしょうか。定期的な点検し、必要に応じて耐震改修をしてください。県は市町村と連携して、ブロック塀の実態を調査すると

とともに安全性の確保について啓発を行い、耐震改修についての指導を行います。

◆落下対象物の安全確保
落下対象物とは建築物の外壁のタイル、屋外に面している窓ガラス、広告板、その他の建築物の屋外に取り付け物を言います。落下対象物の所有者と建築物の所有者は、定期的な点検し、落下しないように努めてください。県は市町村と連携して、落下対象物の実態を調査するとともに安全性の確保について啓発を行います。また、県は耐震改修について指導を行います。

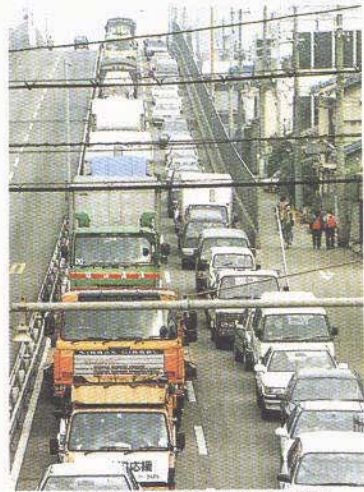


ポイント 古い建築物の 耐震改修

昭和五十六年五月三十一日以前に建築された建築物(旧基準による建築物)の所有者は耐震診断を行い、必要に応じて耐震改修に努めてください。

県は市町村と連携して、既存建築物の耐震診断及び耐震改修の実施状況を把握するとともに、その必要性について啓発を行います。また、県は耐震診断及び耐震改修について指導を行います。

特集 東海地震・神奈川県西部の地震に備える



被災地へ向かう車で道路は渋滞した—95年1月18日西宮市内

ポイント 地震発生時の緊急交通の確保

阪神・淡路大震災では、避難する車と救済の車で、道路が大渋滞を起しました。緊急輸送

路の確保は、重要な課題です。◆総合調整 県は、消火、救出救助、救護

▽県民のみなさんは車両の通行禁止、または通行制限に協力

などが出滑りに行われるよう市町村や国の防災関係機関、関係事業者が、それぞれ地震発生直後から、的確に役割を果たすことができるよう総合調整を行います。◆道路の迅速な復旧 緊急車両を通行させるため、障害となる物件の除去、および被災した道路の応急復旧のための体制を確立しておきます。◆緊急輸送路の確保 道路、港、ヘリポートを連結した緊急輸送路を指定し、事前の整備に努めます。◆県民のみなさんの協力

県の防災拠点、別館の完成間近



県庁別館の工事が、三月完成に向けて進んでいます。東海地震に備えた県防災局と県警本部が入る「防災警察棟」として機能し、文字通り防災の拠点となることが期待されています。

建設規模は地下二階、地上二十一階建て、延べ面積二万六千五百平方メートル、塔建物部分が九十八メートルの高さで、静岡市内一の高さとなります。防災局関係(地震対策課と消防防災課)が四階から七階に、県警本部が十一階から十九階に配置されます。

は災害対策本部となり、被害状況を把握し、応急対策を実施します。通常は会議室として使われる六階は県警災害対策室に、七階には自衛隊など支援部隊が入ることになっています。壁は

収納庫になっていて、臨時電話をはじめ支援に必要な物資が準備されています。

特色のひとつは、「総合情報ネットワークシステム」。総事業費百二十億三千万円をかけ

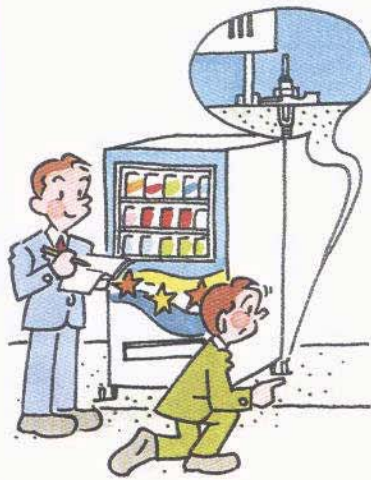
平成三年度から整備してきたもので、別館完成と同時に、システムのコンピュータが動き始めます。防災行政無線の拡充と衛星通信の導入によって、災害情報の、収集伝達を迅速に、また的確に行うことが目的です。

衛星通信システムは、広域性、同報性、耐災害性が特長。全国に向けての情報発信・収集、一斉通報や国とのホットライン確保を可能にします。また、災害現場の映像を衛星通信用移動中継車を使って中継します。

無線、衛星通信で情報収集

建物自体の高い耐震性も、特色となっています。例えば振動に強いコンピュータが置かれる電算室は三次元地震に、電気や水道などライフラインも、あらゆる事態を想定して二系列以上になっています。

地震防災に関する知識、技能が習得できる講習会の開催などにより、防災活動の中核となる人材の育成に努めます。



ポイント 自動販売機の安全対策

自動販売機の所有者、据付け業者は、屋外に設置する自動販売機の転倒防止を図ります。基準に適合するよう据え付けてください。

あつたに設置された自動販売機は、据付け年月日、所有者の名前、もしくは名称や連絡先が表示されます。市町村や県による点検調査と、基準による指導が行われます。

条例では、災害が発生した場合の避難所の運営や、建築物の応急危険度判定などについても定めています。県と市町村が連携して行うものから主な項目を紹介いたします。

- ◆避難所の運営 市町村は、地震が発生した場合、住民の避難が円滑に行われるよう避難所の運営体制の整備に努め、県はこれを支援します。
- ◆災害弱者への配慮 障害者、高齢者、乳幼児、外国人など地震への対応に困難を伴うことが予想される人について、避難誘導、介護支援など、困難の解消に配慮した地震対策を講じるよう努めます。
- ◆被災した建築物の応急危険度判定 応急危険度判定が円滑に実施されるよう実施体制の整備と充実を図り、応急危険度判定について県民の啓発を行います。一方、被災した建築物の居住者や所有者は、応急危険度判定に協力しなければなりません。判定の結果に応じて必要があるときは、入居者の避難、建築物の応急補強などの措置をするよう努めてください。
- ◆ボランティア活動への支援 地震が発生した場合に、活動が円滑に行われるよう、受け入れ体制の整備、コーディネートなどの養成など活動への支援に努めます。
- ◆地域防災技能者の育成 地震防災に関する知識、技能が習得できる講習会の開催などにより、防災活動の中核となる人材の育成に努めます。

富士川河口で活断層調査

一九九五年一月十七日未明に兵庫県南部地震が起こりましたが、その原因は、活断層が動いたからです。活断層とは、いったいどのようなものなのでしょうか？

地震を起こす力のもと、プレートと呼ばれる地球表面の厚さ百メートル程度の固い岩石の層の運動です。日本列島は、このプレートにより押され、おり、限界まで達すると弱い部分が破れます。これが活断層であり、断層が急激にずれて地震が発生します。活断層とは、地質学的に新しい時代（160万年とか200万年から新しい時代）に活動した断層で、それゆえ今後とも活動する可能性がある断層を言います。このうち一定以上の長さ（数百メートル）をもつ活断層が被害地震と関連があると考えられています。

活断層はいつも動いている

度推定することができます。活断層の主な調査方法としては、まず、人工地震などで地面に振動を与え波の伝わり方を測ったり、地中の電気抵抗を測ったりして地質構造や断層の位置を明らかにします。これにより明らかになった断層の両側で一点を深く掘り下げボーリング調査を行い、両側の地層の食い違いを測定することによって、断層の活動度を明らかにします。最終

長期的な予知に役立つ

的には断層通過位置に、トレンチ溝を掘削し、その壁面を詳細に観察するとともに、火山灰や腐植土などの年代測定資料を採取し、過去の活断層の活動間隔と最終活動時期を明らかにします。これにより、この活断層の次に活動する時期が推定し、長期的な地震予知が可能となります。

富士川河口断層帯は、東海地震を起すと言われる、プレート境界の断層が富士川河口付近で陸地に上陸したものと考えられています。一八五四年の安政東海地震のときは、東海道本線の富士川鉄橋付近の河原やその付近で、断層の運動により、地震山と呼ばれるほど地面が盛り上がりました。このように、富士川河口断層帯は、非常に活動度の高い断層と考えられています。

通産省工業技術院地質調査所では、平成七年度事業で、富士川河口断層帯のうち、入山断層、大宮断層、安居山断層、芝川断層の調査をしています。



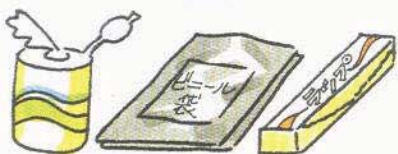
また、静岡県も富士川河口断層帯の残りの活断層である入山断層等を調査します。

地質調査所により、大宮断層は過去三千年以内に、活動した可能性があるということが分かってきました。今後の調査により、富士川断層河口帯の地震危険度を明らかにし地震防災対策に役立てていきたいと考えています。

富士川河口断層帯のほか、県内で長さ数百メートルを超える活断層が分布しているのは、伊豆半島（丹那断層、石廊崎断層ほか）と北駿東部地域（神縄断層系）です。県中西部には長さが数百メートルを超える活断層は知られておりません。

最近話題になった静岡市有度山周辺の草薙断層も学会で活断層として広く認められています。研究成果は、今後の研究が待たれるところでありますが、通説としては有度山を形成する地殻変動は断層運動によるものではないとされています。（県地震対策課）

防災グッズ



阪神・淡路大震災では、長引く避難生活の中で、さまざまなサバイバルグッズが注目されました。ここでは、便利な日用品のおさらいと、すぐれものグッズの紹介を試みましょう。

■トイレトペーパー
本来の目的でも、また、食器の汚れをふきとったり、タオル代わりに、別の用途でも活躍しました。

■ビニール袋
大型ビニール袋は、中央部分に穴を開け、頭からすっぽりかぶるとレインコートに。段ボール箱の中に重ねて簡易トイレに。また、水の運搬にも使えます。火災の際、空気を入れてかぶると煙を吸わずに避難できるとも言われています。サイズの小さいものも何かと便利。避難先

の差し入れでも、大小のビニール袋はとも喜ばれたそうです。

■ラップ
食器にかぶせて使い、食後にラップを外せば洗わなくても済みます。水がないとき、紙の皿がないときに調法しました。

■メモ用紙と筆記用具
避難先を書き残したり、待ち合わせ場所を掲示板に張ったり、コミュニケーションに欠かせません。

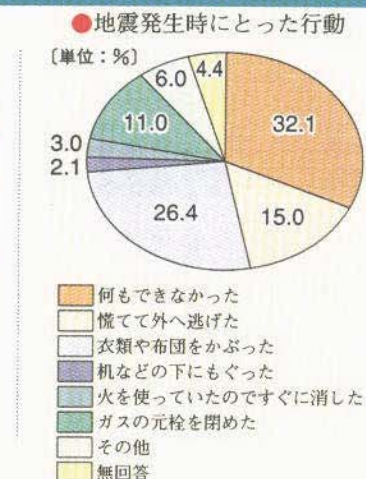
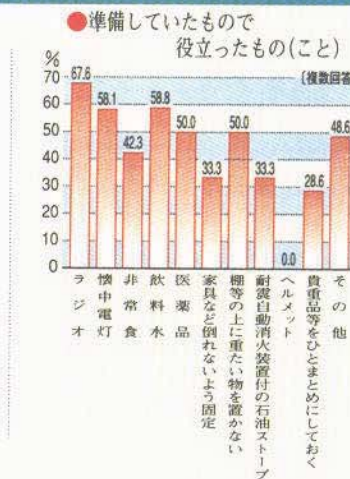
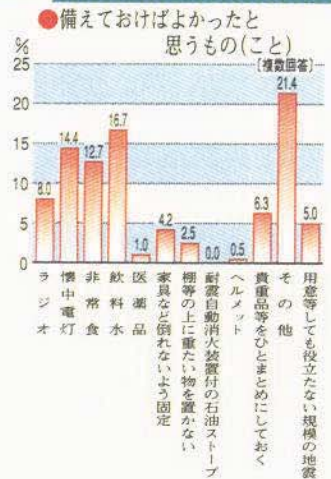
■ウェットティッシュ
水が不足している時、顔や手を発汗しました。

がふけて役立ちました。傷口をふいたり、ガーゼ代わりにもあり、シャンプーのできない場合にも出番となりました。

■ボール、ジャッキ
倒れた家から、家人を救出するのにも自動車のジャッキを使っていた人がいました。また、「ボールさえあれば、助け出せた」という事例もありました。チェーンソーやボールは備えておいた方がよいでしょう。

■バイク、自転車
混乱する交通網の中で、機動力を発揮しました。

そのとき市民は…データで見る阪神・淡路大震災



神戸市消防局は昨年二月下旬、阪神・淡路大震災発生時の市民の防災意識と行動調査を行いました。学生ボランティアが避難所などの八百四十人から聞き取り調査したもので、九五%の市民が神戸での地震を想定しておらず、備えをしてい

た人はわずかだったことなどが分かりました。しかし、震災後は防災意識が大きく変化しています（資料提供：神戸市消防局）。

東海地震・神奈川県西部の地震に備える 特集

便利はこれ

アルミはくでできた緊急用のシート。アウトドア用品で、山中で野宿を余儀なくされたとき、体に巻いて寒さを遮断するのに使われています。

レスキューシート



手の平サイズですが、広げると畳二畳くらいの大きさになります。

携帯用浄水器



威力抜群のストロタイプ浄水器。水の中に存在する大腸菌や有害物質などを取り除き、安全な飲料水をつくりま

す。川やプール、池、風呂の水でも問題なく飲めるようになります。このほか、海外旅行に使用されている円筒形の携帯用浄水器を使っても、安心して飲める水になります。

対処法 Q&A

こんなとき、どうしたらいいの？ 非常時には予想外のトラブルが発生します。実際に寄せられた問い合わせをまとめた「震災対応マニュアル」(日本ヒューマン協会発行)から、対処法を紹介してみよう。

Q「震災でお札が焼けてしまいました。交換してもらえますか」



燃えた場合があります。具体的な目安としては、面積の2/3以上残っている場合は全額、2/5<2/3が残っている場合は半額

A 原形を崩さぬよう、また灰などの細かい部分も集めて、適当な容器に入れて日本銀行に持ち込めば、鑑定により換金可

肌着セット

保管しておくのに場所を取らず、携帯に便利な肌着のセット。



Tシャツ、男性用はブリーフ(女性用はショーツ)、靴下、タオルが圧縮された状態で入っています。縦十センチ、横十四センチ、厚さ二・五センチの超コンパクトな大きさ。ほくすか、水を含ませて使用します。

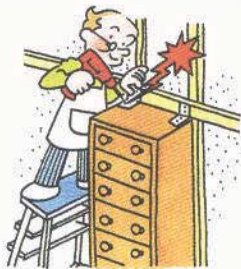
家具の固定請け負います

シルバー人材センターが推進事業

東海地震では「家具の転倒」による死傷者は約三万人(予知なしの場合)と想定されています。県では以前から家具の転倒防止対策の啓発・普及に努めてきましたが、大地震では「自らの命は自ら守る」ことが基本であり、四月から施行の「静岡県地震対策推進条例」で、家具の固定の自主的な実施を県民の責務として規定し、一層の推進を図りたいと考えています。

しかし、県内の現状を見ると、家具を固定していない家庭が約六割にも達しています。原因のひとつとして、固定作業を実施することが困難な家庭(例えばは寝たきり老人世帯など)があることが挙げられます。

こうした実態から、シルバー人材センターが家具の固定作業を代行する事業を、市町村の協



交換ということですが、形が崩れると換金額に影響するため、取り扱いはご注意ください。

Q「通帳、カード、印鑑を紛失、または焼失してしまいました」

A 阪神・淡路大震災での特例扱いでは、本人確認できる書類(運転免許証等)の提示および筆跡等による窓口での本人確認で預金が払い戻しされました。お届け印を紛失した方には指印で対応しました。新しい通帳・カードは後日窓口へ本人確認できる書類および新しい印鑑を持参すれば、再発行手続きしてもらえます。今回の特例扱いでは、再発行手数料が無料にな

りました。

Q「被災地への連絡に公衆電話がかかりやすかったようすが、どうしてですか」

A カード専用機については停電になると利用できなくなり

ますが、カード専用機は原則として複数台設置されている場所に設置することとしており、他の硬貨併用機をご利用ください

。また、被災地への通話が続きますと交換機がパンクしてしまう恐れがあることから、一般加入電話からの通話は自動的に規制がかかるようになってい

ます。しかし、すべての通話を規制することは問題も大きいこと

から、公衆電話からの通話は

力を得ながら進めていただくよう、「静岡県地震対策300日アクションプログラム」に位置付け、シルバー人材センターと市町村職員を対象とした研修会を一月に開催しました。

現在、シルバー人材センターと市町村が協力しながら、地域の実情に合わせた制度の充足の作業中ですので、市町村の広報紙による案内記事などにご留意の上、皆様の活用をお願いしま

す。

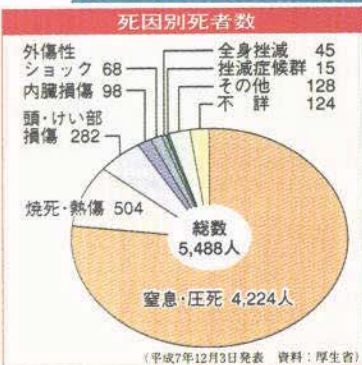
災害優先電話と位置付け通話の確保に努めています。なお、十円玉がかかりやすいということはありません。

Q「地震で転倒した冷蔵庫を起こして使用して大丈夫?」

A 転倒した場合は壊れていないように見えても、必ず点検を受けてください。点検を受けるまでたとえ停電していても電源プラグをコンセントから抜いておいてください。故障していない場合でも、いきなり電源を入れると、それが故障の原因になることがあります。

冊子の問い合わせはヒューマン協会(電03(3470)4320)。

そのとき市民は...データで見る阪神・淡路大震災



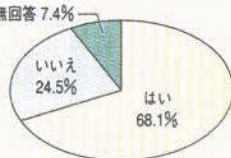
阪神・淡路大震災で亡くなった方は女性と高齢者が目立ちました。厚生省が昨年十二月にまとめた死亡状況の分析結果は、グラフのようになります。

数字は昨年六月までに「震災による死亡」として届けられた五千四百八十八人について集計したもので、女性は男性の一・五倍。六十五歳以上の高齢者が全体の四三・七%を占めています。死因別にみると家庭の倒壊などによる「窒息・圧死」が七七%を占めています。

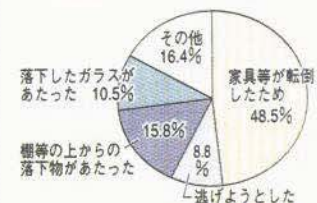
●地震を想定した訓練への参加経験はあるか



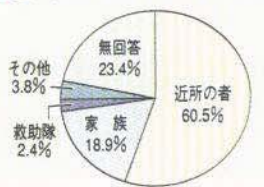
●地域の防災訓練に積極的に参加するか



●けがをした人の原因



●救出活動に当たったのは



地震防災 公開講座から

神戸市の前消防局長が講演

地震防災公開講座が一月十八日、県地震防災センターで開かれました。「阪神・淡路大震災の一年」をテーマに、前神戸市消防局長の上川庄二郎氏が、自然災害保険制度創設の必要性や、被害状況、神戸市の取り組みについて講演しました。

自然災害保険制度を提案

上川氏は、大規模災害からの復興・被災者救済のためには、国民皆保険（強制保険）による自然災害保険制度の創設が必要だと提案しました。その根拠として、地震保険の加入率が一〇パーセントに満たないことや、住宅再建が大きな課題となっている点を挙げ、「現状では個人の財産まで税金で補てんできない。自然災害保険という形での対策が必要」と説明しました。また、倒壊家屋の下敷きにな



講演する上川庄二郎氏

った人の救助は「半日、長くて一日が勝負」と話し、断水対策だけでなく、生活用水を蓄えることも考える必要がある」と指摘。消防や警察の広域応援は半日は当てにできないことから、この間の対応のために、神戸市では「消防職員の迅速な動員を狙いにした待機寮の拡充」「消防業務を担当した一般職員を対象に研修を実施し、発災に備える予備登録制度の導入」「日ごろの住民防災コミュニケーションづくりや、災害発生時の情報収集への消防職員OBの活用」などに取り組んでいると話しました。

地震防災 センター だより

入館者30万人を達成

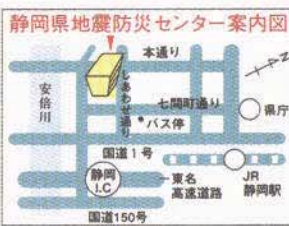


記念植樹をする久保田泰義さんら

静岡県地震防災センターの入館者が一月二十四日、三十万人を達成しました。三十万人目の入館者は、十三人のグループで訪れた沼津市消防団西浦方面隊の久保田泰義さん。西山俊夫館長から非常持出品セットが贈られ、耐火性の樹木、サンゴジュを記念植樹しました。

センターは、東海地震に備えて、防災意識の啓発と知識技術の普及、防災対策の活性化を図る目的で平成元年四月二十日にオープンしました。自主防災組

織や企業、行政機関などの研修、小・中学生の学習の場として利用されています。天皇皇后両陛下、皇太子殿下、村山元首相をへは、沖繩や北海道からも多くのの方々を訪れています。センター内では、家具の固定や建物の耐震方法の展示、模型パネル、起震装置、津波のシミュレーションなど、おしゃべりなパンフレットができました。ご利用ください。



静岡県地震防災センター案内図



静岡県地震防災センター

地震予知 観測学習 モデル校からこんにちは

私たちの県立農業経営高校は、浜松市の北部、都田町にあります。浜松駅からバスで五分ほど、近くにはテクノポリスがあり、自然環境に恵まれています。平成九年に創立百周年を迎える、歴史と伝統のある農業高校です。

現在、地震予知クラブ部員は三年生六人、二年生八人、一年生八人の計二十二人で、上級生と下級生の区別なく、楽しく活動しています。週一回の必修クラブが主な活動時間ですが、気象観測は毎日行っています。東海地震が起きると言われて

県立農業経営高校



データのチェックをする地震予知部の皆さん

から二十年近くたち、防災意識が薄れがちだと指摘されています。しかし、阪神・淡路大震災は非常に衝撃的であり、テレビや新聞などの報道を通じて大地震の恐怖を身近に感じました。この大災害を教訓にして、全校生徒を対象にして、防災意識に関するアンケート調査を実施しました。これは、防災意識を高めるのに役立つところ、学校周辺の環境は、

県民の皆さんがセンサーです！ 異常現象を感知したら 情報をお知らせください

地震や火山噴火の直前には、観測機器だけでなく、人間や動物にも感知される前兆現象があるらしいことは広く知られています。いわゆる「宏観異常現象」と呼ばれるもので、過去の事例によると、この現象の出現パターンには若干の規則性が認められ、将来、発生の予測される東海地震の場合も、宏観異常現象が出現する可能性は否定できません。

そこで県民の皆さんにセンサーになっていただき、次のよう

東南海地震（1944年12月7日発生）の前兆事例

項目	数
地震	18
地鳴り	208
動物異常行動	46
地動	33
動物異常行動	91
異常気象現象	26
異常光・海象	15
地下水・温泉	15
合計	437

- ② 鳴動（地鳴り）・前震
- ③ 動物の異常行動（動物の異常行動は宏観異常現象のなかでも最もポピュラーなものです。「ネズミがいなくなった」「イヌが悲しそうに泣いた」「カラスが鳴きわめいた」「イワシが川をさかのぼった」「ヘビが木に上った」「アカトンボが現れた」など、ほ乳類、鳥類、魚類、昆虫類を問わず、地震前の異常行動を認めたとき
- ④ 発光現象（地震前の発光現象といわれる電光、火柱、火球などを確認したとき
- ⑤ 地下水・温水・水温の変化、井戸水の水位変化、噴出などを確認したとき
- ⑥ その他の現象（ただし超能力による前兆事例は科学的分析を施さないので除く）

この情報は、当センターで種別別に集約し、国に報告し、科学的な分析の補助資料とします。
【過去に観測された事例】
① 地形変化（海面に対し、陸地が、目に見えるほど隆起、または沈降したことを確認したとき
1）7500

編集後記

あの大災害から一年余りが経ちました。しかし、復興の礎（つち）の影に、どれほど多くの人々が山積した問題を抱えて取り残されているのでしょうか。静岡県内を見ると、市町村での検討と並行して、県では早期にアクションプログラムを作成、防災対策を根本的に見直し、ハード面の整備拡充も進められています。が、一番肝心な「災害に対する一人ひとりの意識」は、報道される映像が減るのに比例して薄れていくように思われてなりません。

避けられない災害には、備えをし、前向きに立ち向かうしかないのではないのでしょうか。駿河湾は今…。気にかかる活字ばかりが、目に留まる昨今です。（増田和代編集長）

自主防災

地震災害に備えるための
コミュニケーション紙

J I S H U - B O U S A I

no.

33

●編集・発行／静岡県自主防災組織活動推進委員会 ●発行所／静岡県地震対策課 TEL.054-221-3592

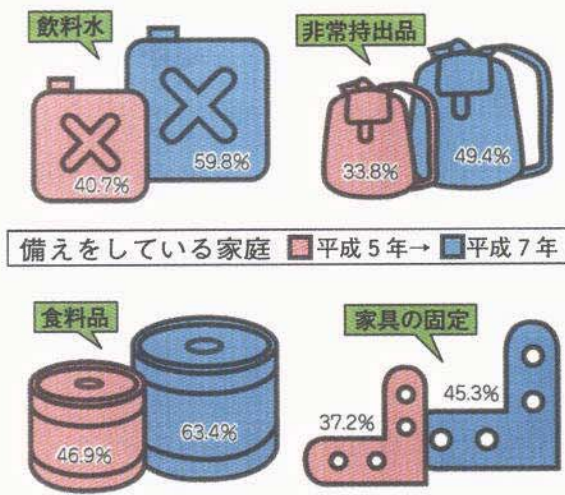
平成8年(1996年)7月1日

東海地震への関心の高まり 過去最高の高まり

県民意識調査で こんな結果が出ました

東海地震への関心が、かつてない高まりを見せています。県が昨年十二月に実施した意識調査によると、二三年前より関心が強くなったと答えた県民は六三%、平成五年の前回調査(三七%)を大幅に上回る過去最高の数字でした。それだけ、昨年一月の阪神・淡路大震災のショックが大きかったといえるでしょう。

でも万全な備えには まだまだ努力が...



関心の高まりは、家庭での日ごろの防災への備えにも現れています。例えば、食料品の備蓄をしているのは六三%(前回四七%)。「飲料水の蓄え」は六〇%(同四一%)。「非常持出品」の用意も四九%(同三四%)。「家具の固定」は四五%(同三七%)と、いずれも大幅に増えています。

しかし、東海地震が起きた場合、非常食だけで最低三日分、飲料水も最低で三日分(一人一日三リットル)が必要といわれています。その尺度でみますと、食料を三日分以上備えている家庭はまだ三%、飲料水を三日分以上ためている家庭は三%にしかなりません。お宅はいかがでしょう。

より実践的な行動を

今回の県の調査をみる限り、県民の防災意識は上がっています。しかし、東海地震という同時多発、広域的な災害を想定すると、食料、飲み水、非常持出品、家具の固定も、最低の備えをクリアしている家庭はまだ半分にも達していません。

今年の自主防災組織活動推進委員会のテーマは「より実践的な行動を」です。「自分の命は自分で守る」「自らの地域は皆で守る」ことを目指し、具体的な行動をみなさんとともに考え、行動していきましょう。

新任のこあいさつ

阪神淡路大震災の発災当時には、東海地震に対する住民の意識が高まり地震対策を講じなくてはと思う住民が多く、当時防災用品が不足がちで対策がすぐ出来なかった自主防や家庭が多くありました。

最近はやや意識低下傾向にあるように受けとめています。「自らの命は自分で守る」の原則から、真剣に家庭内対策をお願いします。火を出さない対策・家具の転倒落下防止対策・水の確保・食料の備蓄・非常持出品の点検整備・家屋の耐震診断等の対策をして、東海地震発後自主防災活動に積極的に参加活動できるようにして下さい。

自主防災組織についても防災マップの作成をして、災害弱者対策、避難路の危険個所の点検・資機材の点検整備等の対策が必要です。防災直後は、行政に頼ることは困難ですので自分達で協力しあって対応しなくてはなりません。いずれにしても積極的に行動できるよう、この一年間意識の向上に推進委員全員で頑張ってください。

備えよ常に!

人が家具の固定等を実施していないという現実があります。地震の最大の敵は油断です。今年の自主防災組織活動推進委員会のテーマにもありますとおり、実践的な行動までつなげることが大切です。

今後とも自主防災組織活動推進委員会ですますの「活躍」と、またどうか皆様方には終わらず、本紙に積極的に投稿する事によって「自主防災」の舞台に参加され、より一層の防災対策がともに推進されますようお願い申し上げます。



静岡県防災局長
植田 勝男



県自主防災組織活動推進委員会委員長
小倉 清隆

阪神・淡路大震災から約一年半が過ぎましたが、神戸では今も重機の音が鳴り響いております。被災者の方々も、これからが本当にがんばらなければならぬ時期だと思いのことと察します。本県も復興に側面から支援させていきたいと思います。お真の活気が一日も早く取り戻せるよう願っております。

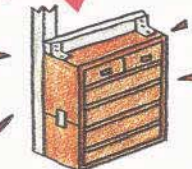
さて、本県では、アンケート結果にもありますように、前回の調査と比較すると、防災意識が高まり、防災対策もかなり進められたものの、まだ半数以上

「自主防災」の舞台への参加を

今年も自主防災組織活動推進委員会ですますの「活躍」と、またどうか皆様方には終わらず、本紙に積極的に投稿する事によって「自主防災」の舞台に参加され、より一層の防災対策がともに推進されますようお願い申し上げます。

TO PROTECT YOUR LIFE IN AN EARTHQUAKE 地震から命を守るために

What You Should Do First



家具類の固定

- 寝室・居間・幼児のいる部屋にはできるだけ家具は置かない
 - 家具は壁に固定する
- 가구류의 고정**
- 침실·거실·어린 아이가 있는 방에는 되도록 가구를 놓지 않는다
 - 가구는 벽에 고정시킨다
- 家具类的固定**
- 寝室、起居室以及婴幼儿起居的房间里，尽可能不放家具
 - 家具固定在墙上，以防倒下

Fixe a mobilia

- Mantenha apenas o mínimo necessário de móveis em quartos de dormir, na sala de estar e em áreas usadas por bebês.
- Fixe os móveis na parede.

Fijación de los muebles

- Deje lo mínimo posible de muebles en los dormitorios, sala de estar y los espacios usados por los bebés.
- Fije los muebles contra la pared.

Securing Furniture

- Place as few pieces of furniture as possible in bedroom(s), the living room and the baby area.
- Secure furniture against the wall.

지진에서 생명을 보호하기 위하여 从地震中维护生命的安全 PARA PROTEGER SUA VIDA NUM TERREMOTO Paraprotger su vida en un terremoto

津波

7月1日から
津波対策推進旬間



津波地震（震度
（揺れの大きさ）が
小さいわりには、大
きな津波が発生する
地震のことをいいます。代表的
なものとして、1896年（明
治29年）の明治三陸地震津波が
あります。沿岸の震度は2〜3
程度でしたが、マグニチュード

（地震のエネルギーの大きさ）
は8.5で、大津波が押し寄せ、
陸前吉浜では高さ25メートルに
も達し、死者が2万7千人以上、
全半壊流出家屋約1万棟の被害
が出ました。
▼遠地津波 日本の沿岸から
600キロメートル以上を越え起
った地震による津波のことをい
います。1960年（昭和35年）
に南米チリ沖で起きた地震（マ
グニチュード8.3）で発生し
た津波は、約23時間後に日本に
襲来。波高は三陸海岸で5〜6
メートルになり、日本全体で死者1
42名、全半壊家屋約3、50
0棟の被害が出ました。

海岸で揺れを感じたら すぐ避難

平成5年の北海道南西沖地震
の津波被害を教訓に、県では津
波対策推進旬間を定めており、
今年で3年目となり
ました。

地震災害には、火
災、建物倒壊、山・
崖崩れなどがありま
すが、津波も大きな
被害をもたらしま
す。これまでも防潮
堤、津波水門の設置
など津波対策を進め

7月6日は県下統一訓練日です

てきましたが、東海地震が発生
した場合、津波により死者50
0名余、負傷者約4500名に
なると予想されています。
津波は「すぐ避難」すること
が重要です。海岸近くで強い地
震を感じたら、また、「津波警
報」が出されたらただちに避難
しましょう。

い、の県下37市町村で、地震発生、
津波警報が発令されたことを想
定し、津波監視・警戒、避難誘
導、救出・救護などの訓練を行
います。（地域によっては実施
日が異なる場合があります。）
特に、津波危険予想地域の方は
積極的に参加して、避難する場
所、避難の経路などを確認して
おきましょう。

事業所の役割
地域との連携
お願いします

県地震対策推進条例が四月一
日から施行されました。この条
例の目的は、大地震発生時には、
大量の被災や交通渋滞などが想
定されることから、県、市町村
とともに県民（事業所、家庭）
も、それぞれの役割を果たしな
がら、一丸となって対処してい
くこととするものです。この中で、
事業所の役割として、人の安全
確保と設備の耐震性の向上など
のほか、「地域との連携の強化」
をお願いします。これは、
阪神・淡路大震災での教訓か
ら、事業所が、地域住民や自主
防災組織等と協力して、倒壊家
屋からの救出活動などをする必
要があるためです。
つきましては、各事業所にお
かれます。可能な限り、次
のように「地域との連携の強化」
をお願いします。

東海地震津波の被害想定

市町村	想定波高 (T.P.m)	建物被害 (棟)	浸水面積 (km ²)
下田市	2.7-7.6	3,485	1.35
東伊豆町	3.0	18	0.06
河津町	3.2-3.4	328	0.08
南伊豆町	2.5-7.8	1,394	0.61
松崎町	3.1-7.0	1,525	1.41
西伊豆町	3.4-7.0	1,081	0.44
賀茂村	3.2-5.7	724	0.21
熱海市	3.0	-	0.015
伊東市	3.0	-	0.015
沼津市	2.1-10.4	5,061	2.20
戸田村	2.4-3.8	1,381	0.44
土肥町	2.9-6.7	560	0.48
富士市	2.6-3.8	39	0.70
静岡市	3.5-7.2	401	0.36
清水市	1.4-5.0	11,870	6.34
蒲原町	2.5-3.6	-	-
由比町	1.7-2.8	-	-
焼津市	2.0-3.9	3,427	1.42
大井川町	2.2-5.9	175	1.66
御前崎町	3.1-8.2	67	1.44
相良町	4.2-7.2	728	1.04
榛原町	3.1-4.7	356	0.53
吉田町	2.5-4.0	30	0.62
豊田町	4.4-4.5	-	-
大東町	5.9-6.7	35	1.07
大須賀町	4.1-5.9	-	0.39
浜岡町	4.3-7.0	-	-
浅羽町	3.6-5.3	8	0.21
稲田町	3.5-5.1	386	1.53
竜洋町	3.3-4.9	8	0.001
浜松市	0.9-5.6	331	2.49
湖西市	1.4-4.7	9	0.03
豊原町	2.2-4.2	2,822	3.15
新居町	1.8-5.1	1,571	2.32
雄略町	2.0-2.9	171	1.15
細江町	1.2-1.8	6	0.015
三ヶ日町	1.0-1.8	-	-

いざという時、電源が切れる 安全装置内蔵コンセント



阪神・淡路大震災の経験を基
に、いろいろな企業で防災ケッ
ズの開発が進められています。
「安全装置内蔵コンセント」も、
新たに商品化されたもののひとつ
です。地震などの揺れを感知する
と、100ボルトの電源を遮断
し、そのコンセントから使用し

ている電化製品のプラグを引き
抜くのと同じ効果を発揮しま
す。
震災の起火原因の四分の一が
電気だったと報告されています
が、この耐震コンセントで夜で
も留守でも安心。日常でも過電
流や漏電による火災防止に役立
ちます。
大きさは縦一三・四センチ横約

防災グッズの紹介は「自主防
災3月1日号」で県民の皆さん
の反響が大きかったコーナー。
今後紹介していく予定です。

地震予知 温泉学習 モデル校からこんにちは

県立松崎高校

私たちの県立松崎高校は伊豆
半島の西海岸に位置する松崎町
にあります。西には駿河湾を望
み、東は天城の山々に囲まれ、
近くには国立公園堂ヶ島など美
しい自然環境にめぐまれた風光
明媚な所です。また、しつこ
く有名な入江長八の美術館や
なまこ壁、
全国の桜葉
の八〇%の
生産量を誇る桜葉畑などをほ
じめ、観光・温泉・漁業・農業な
どで有名でもあります。松崎高
校は今年で創立七十三年目を迎
え、コース制が導入されたり、
制服が変わったりと新鮮な気持
ちで私たちも生き生きと学校生
活を送っています。
さて、私たち松崎高校サイエ
ンス部は三年生三名、二年生一
名、一年生一名の五名の部員で
活動しております。部の名から
わかるように地震の観測ばかり
でなく、化学の実験や物理の実
験も行っております。昨年は部
員も三年生七名、二年生一名で
したので、今年の活動がどうな
るか心配していましたが、新入
部員を迎え、一安心しています。
今は主に観測は十六年ほど前
から西伊豆の土地柄ともいえる
裏山にある温泉の源泉の温度変
化や電気伝導度の変化の観測、
三〇分の深さの井戸の水位の観
測などを行っています。とくに
温泉温度の観測では過去に幾つ
かの地震を予
知し新聞や民
放のテレビ番
組で紹介されたことも
ありました。現在は残
念ながら部員が少なく
なったことで、毎日の
観測ができなくなり、
月に一度程度自動観測
装置で得られたデータ
を考察する程度になり
ました。西伊豆は過疎
化が進んでおりこれか
らも生徒数が減少する
と思います。少人数の
部員でいかに多くの研
究ができるかが今後の
課題になります。
近い将来、東海地震
が起こると言われてか
らもう十七年が経ち
ました。地震の起こる
確率は日に日に高まり
つつあります。日々の
観測がきたる東海地震
の備えになり、多くの
命を救うこともできるかもしれ
ません。少しでも私たちの観測
・考察・研究が世の中のために
役立てるかもしれないというこ
とをいつも頭の中に入れ、また
それがこれからの観測の励みに
もなると思っています。（サイエン
ス部部長・三年 関 允祐）

温泉の温度変化で地震予知



近い将来、東海地震
が起こると言われてか
らもう十七年が経ち
ました。地震の起こる
確率は日に日に高まり
つつあります。日々の
観測がきたる東海地震
の備えになり、多くの
命を救うこともできるかもしれ
ません。少しでも私たちの観測
・考察・研究が世の中のために
役立てるかもしれないというこ
とをいつも頭の中に入れ、また
それがこれからの観測の励みに
もなると思っています。（サイエン
ス部部長・三年 関 允祐）

西から東から 自主防災活動リポート

カードで把握 隣組づくり

三島市

今までは市の要請に従って書類を作り、防災倉庫の中は防災用品があくびしている状態。組織図も二十年前は市自主防災会からの用紙に町内会役員と地区代表組長を加え、あとは組長にまかせきりでした。

もちろん、毎年の防災訓練は実施し、消防団員からの救急指導や一次避難、二次避難訓練などを重ねてきましたが、なんとなく参加してのワンパタンの繰り返し。マンネリ化が目立っていました。その矢先の阪神淡

・役職名簿
①町内運営のための隣組組長（老人を含めてだれでも可）
②自主防災組長（隣組を指導できる人、四十五年は続ける）
③最小単位の隣組につくる

④一つの隣組を高校生以上から六十歳代（七十歳代は健康な人）までのすべての男女を対象にして、人員確認班、消防班、救出救護班、避難誘導班、炊き出し物資班、情報連



仮設トイレの設置訓練

Aカード―幸原町自主防災会表

- ①世帯表の作成
- ②プライバシーと考えるものは具体的に書かないことに徹する
- ③家族の中で主として家にいるのは？ 全戸ほとんど一日中家にいる 昼間だけ家にいる 夜間だけ家にいる、の三つに分類する

一日移動 防災センター

森町

阪神大震災後県内でも東海地震に対してあらゆる方法で、報道されていますので、意識も高まってきたことは事実と思われ

ますが、一歩農山村に入ればどうでしょうか。西部地区、特に袋井周辺は東南海地震で甚大な被害をこうむりました。あれからすでに五十年以上の歳月が経っていますので、実際経験された方は少なく



人気を呼んだ体験ハウス

この心配を町も考えられてか、一日移動防災センターが森町で開催されました。約百三十四平方メートル、二千人弱の町のうち人口四割をしめる森地区の大広場で、子供会（中高年）と父母を中心に五百人以上の方

が集まりました。県警の白バイ隊の演技を皮切りに行政センターで準備をされた起震車と体験ハウスには多数の方が列をなしました。起震車では揺れだすとすぐ机の下に身をかくす子供、体験ハウスでは手で口をおさえる子、帽子で顔をおおって出て来る子供と、いずれも良い体験だったと思います。ハンカチなどが必要と感じたではないでしょうか。

大きな天幕の中で説明を聞いている親子、隣では緊急時用水装置の説明をうける若い方、なかなかの盛りあがりのように感じられました。これが常日この訓練に二層活用されることをお願いしたい。
(角ヶ谷昇委員)

津波に備え 避難ビル選定

焼津市

東海地震説が発表されてから今年で二十年になりますが、当初から予知を前提とした対策がとられて来ました。ところが近年、地震の予知確率が話題に上り、北海道南西沖地震の教訓もあって、地域の方々が「突発的に発生するのではないか」とい

絡社の六班に分類する。夜と昼とは違っているように違うのかの現状把握（昼間在宅しているのは年寄りと女性と幼児だけであつた）

以上の調査をみると、昼間大地震が起これると、大きく動きがとれないことが判明。今後の対策の方向を見定める上で大変参考になり、各隣組の自覚を大いに刺激することにもなつたと思

うことを重視するようになりました。「津波は地震発生後二分で来るぞ」といった考え方に変わってきました。
△緊急避難ビルの選定
△自主防災会
△PR活動

連の拠点とすることとしています。
△非常用物資の備蓄
△非常用物資の備蓄
△PR活動
自主防組織の各地区責任長の方々は、常々「防災時に火を出さないで」「けがをしないで一刻も早く避難すること」の指導とPRに努めています。「自らの命と地域は自分たちで守る」といったことが、自主防組織の使命と考えています。また災害弱者については、各家庭の方が常に念頭においていただくこととしていますが、周囲の家族に協力していただけるよう、日ごろのお付き合いを大事にすることを呼び掛けています。
(原川治男委員)

地震意外史 訪ねある記

日本で初めて木造で復元された掛川城天守閣「東海の名城」とうたわれた美しい姿は、人気の観光スポットとなっています。

東海の名城を倒したのは…

後、江戸時代のほとんどを生き抜いて歴史を重ねましたが、敵



幕末の激動に日本中が揺れ動いていた嘉永七年（安政元年）（一八五四）東海を中心にマグニチュード別の巨大地震が襲いました。世にいう安政大地震です。

ペナントレースが熱くなってきました。昨年、神戸の被災者たちを大いに勇気づけたイチローも、今年も徐々に調子を上げてきました。
ところで、日本のプロ野球の歴史は意外と古く、大正九年には「職業野球」が誕生しました。しかし、大正十二年に解散となつてしまひ、昭和九年に再び東

わが国最初の 「職業野球」は 震災でアウト

京巨人軍（読売ジャイアンツ）が結成されるまで、十年以上の歳月がかりました。翌十年に日本職業野球連盟が組織されて、現在に至っています。
実は最初の「職業野球」の解散をもたらしたのが大正十二年九月の関東大震災。この大震災が多くの生命、財産を奪っただけでなく、プロ野球の歴史にも大きく関わつたというわけです。

この地震で掛川城下は壊滅的な打撃を受け、お城もほとんど崩壊してしまいました。それから再建されることなく明治維新を迎え、明治二年（一八六九）廃城となりました。
ただ、御殿は大地震にも耐えその後、学校や役所、消防署などとして永く利用されて、昭和五十五年（一九八〇）に国の重要文化財に指定されました。天守閣や本丸の跡地一帯は公園となつていますが、「わが町のシンボルをもう一度」という市民の熱意が裏、百四十年ぶりに美しい天守閣がよみがえりました。



女性パワーを生かせ

防災意識の啓発と防災対策の推進により、県民の生命や財産の保全に寄与することを目的として新たに財団法人静岡県防災情報研究所が開設されました。

研究所の機能は、防災、特に地震防災に係る調査、研究はもちろん、官民の研究機関との自由で広範な情報交換と交流のための専門機能を有し、さらに民間企業・地域・家庭の個々の

ニーズに応えた防災に関するコンサルティング機能を備えています。

また、研究所では、宏观（こうかん）異常現象（地震の前起る動物や地下水などの異常現象）を電話やFAXあるいはインターネットを通じて収集、分析し、東海地震に関わる可能性が高いと判断された場合には気象庁など関係機関へ通報し、

トピックス

女性たちが働きに出ている日中に大地震が起きたら、地域防災の大役は、留守を守る女性たちの肩にかかっています。そこで県内各地では、女性パワーをもっともっと防災に生かしていただこうと、さまざまな試みが始まっています。

袋井市ではこのほど、市の商工会婦人部の呼び掛けで、地震講習会が行われました。

講師は袋井消防本部の寺井進二消防隊長。実践的な内容に女性たちは真剣に聴き入っていました。



防災情報研オープン

宏观異常現象のご一報を

地震予知に役立てます。皆さん身近で何か宏观異常現象と思われることに気付かれましたら、研究所まで一報下さい。

研究所の主な業務

- ・地震防災に関する調査研究とその受託
- ・地震防災に関する情報の収集と提供

地震防災に関する講座の開催

「防災対策は企業の利益」

加州大 米での経験から提言

県防災情報研究所主催の地震防災公開講座が五月二十四日、県地震防災センターで開かれました。十七回目を数えた今回の防災公開講座は「企業の防災対策」をテーマに、日本の大学・企業に留学・勤務した経験を持つ米國・カリフォルニア州立大

学サンノゼ校のグナ・セリユバドレイ教授が流ちょうな日本語で、米國企業の防災対策や阪神・淡路大震災の一年前にカリフォルニアで起きたブリスリッジ地震について一時間半にわたって講演しました。

教授は米國企業の対策や課題

を取り上げ、米國內では防災対策は企業の利益を減らすものとして十分な費用を投じようという意識があることを指摘し、「防災対策を講じていた企業は設備に被害を受けず、地震後に製品販売のシェアを増やし、事前対策を講じた」と米國企業の例をあげました。その上で、「防災対策にかかる経費は企業の利益を減らすものではなく、増やすものだ」とし、事前の防災対策が重要なことを強調しました。また、このような防災対策を充実させるために阪神・淡路大震災を忘れずに準備・対策をとることや、企業内に防災の専門家を育成することを提言しました。会場には企業関係者や自治体、消防職員ら百八十人余りが集まり、教授の講演に熱心に耳を傾けていました。

防災タリ地震よ



見直そう わが家の防災

夏休みに「もう一度見直そう わが家の防災対策」をテーマにした様々な行事を開催します。この機会に家族で地震防災についての知識を得てみませんか。

行事	内容等	開催日時・対象
地震防災ポスター募集	小学生低学年の部 小学生高学年の部 中学生の部	募集期間 平成8年7月16日(火)～9月10日(火) <対象>県内在住または在学の小・中学生
自由研究相談	地震や火山について調べてみよう(資料提供、質疑応答等)	平成8年7月20日(土)～8月31日(土) <対象>小・中学生
フロンチャート自己診断	地震防災について学んでみよう(チェックシート)	平成8年7月20日(土)～8月31日(土) <対象>個人来館者
地震映画会	防災ビデオの上映	平成8年7月21日(日)～8月25日(日) 間の毎日曜日 午前11時～午後2時 <対象>個人来館者
親子防災教室	センター見学(体験コーナー等) 防災用品の説明・試食会 非常食作り実大会 地震クイズ大会 親子で防災会議	平成8年7月28日(日) 8月3日(土) 8月11日(日) 午後1時～午後4時 <対象>県内在住または在学の小中学生及び保護者 各日15組(30名)先着順

※開館時間/午前9時～午後4時、入館無料
※休館日/毎週月曜日、年末年始
※お申込み・お問合せ/静岡県地震防災センター
☎054-251-7100



県自主防災組織活動推進委員会 本年度の委員は私たちです

- 新委員からひと言
- ポレイスカウト指導者歴三十五年。そこでつちかされた、野営法や各種の野外技術と自主防災の接点を模索していこうと思っております。(土山和雅委員)
- 「核家族化や地域住民の高齢化が進んでいる中で、防災活動と行政的手法の再検討を、みんなの知恵を借りながら進めたい」(原川治男委員)
- 写真右から
- 前田玉枝委員 (伊東市)
- 原川治男委員 (焼津市)
- 前田欽吾編集長 (静岡市)
- 服部富子委員 (日赤県支部)
- 小笠原登副委員長 (富士宮市)
- 土山和雅委員 (二島市)
- 小倉清隆委員長 (浜松市)
- 角ヶ谷界委員 (袋井市)
- 野沢正司副編集長 (天竜市)
- 堤實委員 (西伊豆町)

●編集後記 ●被災地神戸に二度目の夏がやってきた。復興への足とを妨げようとする酷暑であってこれねばいいが、防災への張り詰めた気持ちは、時とともに薄れてゆく。関心の高まりを「より実践的な行動」にどう結び付けるかが、私たち編集委員に課せられた宿題なのだろう。(編集長)

自主防災

地震災害に備えるための
コミュニケーション紙

J I S H U - B O U S A I

no. 34

●編集・発行/静岡県自主防災組織活動推進委員会 ●発行所/静岡県地震対策課 TEL.054-221-3592

平成8年(1996年)9月1日

参加して あなたもひと役 防災訓練



9月1日(日)御殿場小山を主会場に 各地で総合防災訓練を実施

各地で総合防災訓練を実施

九月一日(日)は「防災の日」。県内で一斉に総合防災訓練が実施されます。

東海地震や神奈川県西部の地震の発生が切迫性をもって予想されている現在、地震防災対策強化地域である静岡県では、従来にもまして実践的な訓練が必要とされています。

今年度の防災訓練の狙いは、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえて、地震が突然発生した場合の

地域密着型で展開

対応も含め、一人ひとりが家庭、企業、学校において防災知識や防災対応行動の再認識を行い、防災意識を高めること。自主防災組織を中心とした「住民・事業所・ボランティア等」における自主防災訓練や、駅、繁華街、デパート、病院などを対象にした「混乱防止訓練」、そして、緊急消防援助隊をはじめとする広域支援や夜間の救出・救助等の「防災関係機関による応急対応訓練」などを重点に、地元に着した訓練が繰り広げられます。

訓練は、気象庁の観測データに異常な変化が見られたという想定から始まり、午前七時に「判定会」が招集され、午前九時に内閣総理大臣から警戒宣言が発せられます。その後、一日が経過したと想定して翌日の午前九時三十分(実際には当日)に、駿河湾から遠州灘を震源域とするマグニチュード8の巨大地震が発生。県内全域が震度6以上となり、これに対応したさまざまな訓練を実施します。

今年度の会場型訓練は、御殿場市の中央会場(中畑会場)、御殿場小学校会場、小山町会場(須走総合グラウンド会場)で行われます。皆さんの住む地域でも高齢者・障害者・外国人や子供たちに重点を置いた避難・誘導訓練や、初期消火、負傷者の救出・応急救護、給水・給食訓練、夜間訓練など防災訓練が行われます。家庭では、家具の固定や落下物対策、備蓄のチェック、避難路など日頃から話し合っておき、この日の訓練で体験を通して確認してください。

今年度の重点

- 1 防災意識の高揚
- 2 住民・事業所・ボランティア等における自主防災訓練
- 3 防災関係機関による情報の収集・伝達および広報訓練
- 4 防災関係機関による応急対策訓練
- 5 緊急輸送路確保等の訓練
- 6 津波、土砂災害、水害等の危険が懸念される地域における訓練
- 7 混乱防止訓練
- 8 ライフライン等の確保訓練および情報化対応訓練

What You Should Do First!

TO PROTECT YOUR LIFE IN AN EARTHQUAKE

地震から命を守るために



9月1日
総合防災訓練に参加を!

9월 1일 종합방재훈련에 참가합니다!

9月1日 請参加综合防灾训练。

Participem do treinamento sobre desastres naturais! Dia 1 Set.

¡Participemos en las prácticas generales de prevención de desastres del 1 de septiembre!

Join in the General Disaster Drill! Sept. 1

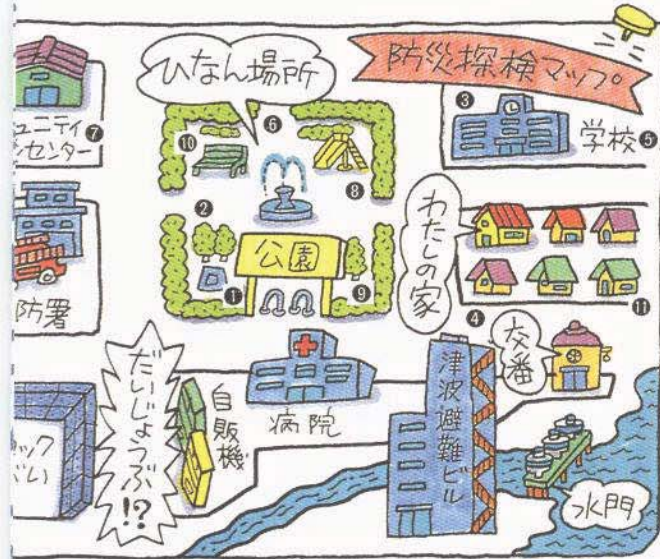
지진에서 생명을 보호하기 위하여

从地震中维护生命的安全

PARA PROTEGER SUA VIDA NUM TERREMOTO

Para proteger su vida en un terremoto

防災訓練に参加してチェックしよう



①避難地案内板「ここが避難地」であることを表示するもので、公園や小学校など指定された避難地に設置されています。このほか自主防災地図掲示板、津波警告標識、避難誘導標識などがあります。

「エーッ、こんなの知ってた？」
あなたの街にも、意外なところに防災施設が設置されています。
「自らの地域は、皆で守る」—大切なものです。ぜひ探検してみましょう。
そして、施設をより生かすよう、防災訓練に参加して、操作などを体で覚えておきましょう。
倒れそうなブロックべい、自販機などもチェックしておきたいもの。あなたの街の地質や被害予想も、市町村の防災担当窓口などで、ぜひ確認しておきましょう。



③公共建物番号表示 ヘリでの緊急輸送など、空からの支援を容易にするために、公共建物の屋上に表示された番号です。(写真の30は静岡市、32は市立青葉小学校の表示。一般開放されている県庁別館21階展望ロビーから見えます)



⑤非常用給水タンク



④街頭消火器

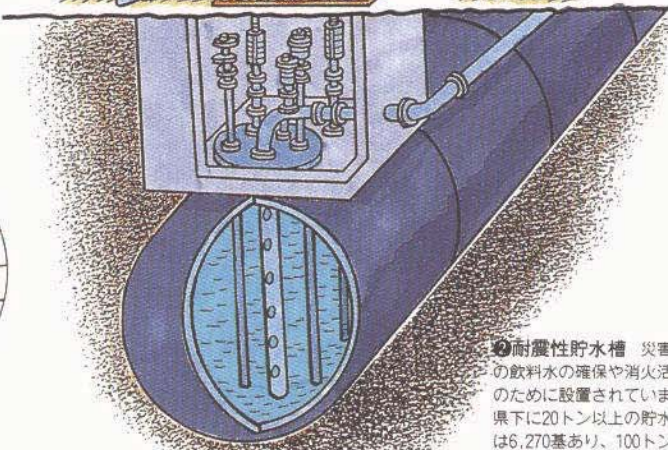


100トン貯水槽は
直径2.6m長さ20mの
鉄管で地下1.2mに
埋設されているんだよ

30センチ分
1万1千人分
になるよ

100トンって
どのくらい

ふたに貯水槽って
書いてある



②耐震性貯水槽 災害時の飲料水の確保や消火活動のために設置されています。県下に20トン以上の貯水槽は6,270基あり、100トン以上は691基、このうち79基は飲料水兼用です。

**貴重な記録に学ぶ 史
自然災害誌が完成 県**
県教育委員会は、このほど「静岡
県史・自然災害誌」第一編(定価
五千六百円)を発刊しました。
原始・古代から現在まで、県内
を襲った地震を始めとするさま
ざまな自然災害を、写真や図を
多く使って分かりやすくまとめた



(科学部部长・山下ジュン)

私たちの磐田北高校は、今では数少ない女子高の一つです。校舎は磐田市全体が一望できる丘の上にあります。校外の風景はともなごかで、人工の震動も少なく、観測に大変適した場所です。このような環境のもとで、私たち科学部は地震予知観測学習に取り組んでいます。
現在、科学部は、三年生五名、二年生七名、一年生六名の計十八名で構成されています。部員数は決して多いとは言えませんが、互いに協力して活動しています。主な活動項目は地震波、水管傾斜、井戸水位、地電位、気象の計五つです。これらの観測記録を、私たちはモデル校調査年報に発表しています。磐田北校がモデル校に指定されたこと、

できたかと思っています。私たちの住む地域は、いつか東海地震が起きると言われ続けています。地震についての防災意識は、一年前の阪神大震災で高まったものの、現在では次第に薄れてきているような気がしています。私たち科学部には、地震の研究を行うだけでなく、その被害の恐ろしさを伝えるとともに、日頃の防災の重要さを訴える役目もあると思います。また、私達の活動の成果が地域の人々の役に立つことができればと思います。そのためにも、毎日の観測を地道に行い、もっと地震のことを知ってほしいと思います。

地盛予知
観測学習
モデル校からこんにちは

県立磐田北高校

れたのは、昭和五十三年、つまり今から十八年前のことです。以来、科学部は、地鳴りや液状化現象などについて、アンケート調査や実験などに基づいて研究を行い、数々のすばらしい賞を受けてきました。現在、私たちはモデル実験装置を用いて津波の性質について研究を続けています。私たちも諸先輩のよう

弓なりの白い砂浜と緑の松林の美しい景観で知られる南伊豆町、弓ヶ浜海岸で、七月六日、突発型地震による津波警報「オオツナミ」、津波の高さ約三メートルを想定した津波避難訓練が行われた。

快晴のこの日、県や町、警察署、消防署、消防団、漁協、地元自主防災会に加え、この日同海岸で開かれた日本ジェットスポーツ連盟主催の全国大会「水上バイクレース公式戦」の大会関係者や選手が競技を一時



水上バイク選手も参加して

西から東から 自主防災活動リポート

津波訓練に 1200人が参加

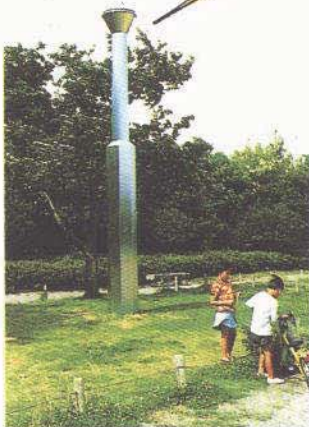
中断し、全面的に協力。他に海水浴客を含め約千二百人参加の大規模な訓練が行われた。午前十一時の地震発生をサイレンと有線放送に合わせ、自主防災役員、消防団がそれぞれ手分けして、ハンドマイク、赤旗を持って人々に海から上がる

訓練終了後、県伊豆行政センター所長は「県外各地から水上バイクレース出場者、海水浴客の人達に防災意識を高めてもらったことは意義が大きい。予想される神奈川県西部地震・東海地震に備えて更に防災意識を高めよう」と講評した。

海岸延長一・二キロの広い海岸に自主防災役員、消防団が手分けして汗たかくなって避難を呼びかけていたが、水上バイク、サーファー、海水浴客の多いこの地区をはじめ海岸を持つ市町

⑥GPS (汎地球観測システム)

人工衛星を利用して地球上の位置、高さを常時観測しています。自動車のカーナビゲーションと原理は同じです。



⑩防火水槽と防災ポンプ置場



⑪自主防災倉庫 パールやつるはし、消火用具、救護用具、かまどやポリタンク、リヤカー、発電機、非常食、テントなどが装備されています。



⑦防災用行政無線 (固定子局)

地震の警戒宣言や津波情報などを一高に知らせる拡声器。親局は市町村役場にあり、子局は県下に5,525局あります。



⑧特設公衆電話機 災害に備え避難地の公園などに設置されています。県内では約1,100カ所、3,000台。

⑨防災用井戸



手際もよく ビルへ避難

静岡

静岡市用宗海岸で七月六日、津波避難訓練が実施され地元元長田南学区内の自主防災組織をはじめ市、市消防本部、陸上自衛隊など約七百五十人が参加した。

まず駿府湾を震源とした突発地震による大津波の襲来が発令され、海岸付近の住民は直ちに所属する班毎に素早く集合して、避難ビルに指定された用宗老人福祉センター屋上へ。避難誘導が手際よく行われた。一方初参加した市オフロードバイク隊十人と自衛隊情報小隊三人が合同でバイクで周辺地帯を巡回して、被害情報の収集と伝達を



避難ビルへ素早く避難

村の自主防災の悩み、課題は大きい。(堤 實委員)

用宗海岸では、海水浴客が津波にさらわれ漂流者が出たとの想定により、市中央特別消防救助隊が出動してポートを利用して救出、救助の活動も行い、実施した。

充実の内容 議論も白熱

中核リーダー研修会

各地で行われる自主防災組織の研修や訓練の場で、中核となる



研修内容は、「災害に備える自主防災組織」の講義をはじめ、救命講習、可搬ポンプや水機、地震防災センター館内見学、非常食の試食など盛りだくさん。中でも同じ課題を抱える自主防災組織の在り方についてのグループ討議は白熱し、内容の濃い発表が行われました。

釣り客救出 漁船で訓練

新居

東海地震で、大津波の襲来が予想される新居町の浜名湖岸で七月十三日、津波避難訓練が行われた。観光客を対象に町、防災関係機関、関係団体が連携して津波の被害を未然に防止する目的で実施された。

午前十時、静岡県で強い地震が発生し、津波警報が発令され



潮干狩り客を搬送

町、防災関係機関、関係団体等の連携とれた訓練だった。(小倉清隆委員長)

ています。先人の残した記録から多くの貴重な教訓を学ぶことができ、今後の防災対策を考える上でぜひ一読をおすすめします。な

お、公立図書館にも寄贈されていますので、ごらん下さい。問い合わせは県教育委員会歴史編さん室(電話054-229-1322)4



ペットボトルが水の保存に便利。ポリエチレン容器は雑用水に

お宅では非常用飲料水の用意を... 「ポリエチレンの容器に入れてあるけど、面倒で交換してない。飲めるかな？」という質問をよく受けます。県衛生環境センターと静岡県生活科学検査センターでは共同で非常用飲料水のテストを行いました。その結果と助言を紹介しましょう。

備蓄の水、飲めるかな

タリーの三種類、容器はペットボトル、ポリエチレン、ガラスの三種類、保管場所は冷蔵庫、室内の暗い場所、ベランダと条件を変えて保存し、一般細菌やにおい、色と濁り、PHなどを調べました(実施期間は昨年七月から十二月)。

「東海地震への警戒」

今年四月に設立された財団法人静岡県防災情報研究所の開設を記念した公開シンポジウムが六月六日、静岡市のホテルアソシア静岡ターミナルで開かれました。

米國ハワイ州災害対策アドバイザーの古本定氏の基調講演と阿部勝征東大地震研究所教授ら4人のパネリストによるシンポジウムが行われ、活発な議論が交わされました。



基調講演する古本定氏

「敏速な行動を」

分て津波の来る場所もあり、警報を待っていたら間に合わない」と敏速な避難行動を呼び掛けた。また、災害情報に関して山本康正駒沢大学教授は住民のニーズに合った適切な情報伝達的重要性を訴えました。

★水を衛生的に保存するのに最適な容器はガラス瓶「スakeri ユーキップ」のガラス瓶に詰められた水道水は、どの保管場所でも期間中、一般細菌、大腸菌とも検出されず、色、においもつきませんでした。(ただし、ガラス瓶には割れやすいという欠点があります)

県が調査

★次に良かったのはペットボトルの空き容器に水道水を詰め、冷蔵庫の中なら六カ月、室内の暗い所に置けば三カ月は安心して飲めるでしょう。★ポリエチレン容器に詰められた水道水からは一般細菌が検出されず、早いものは二週間で、冷暗所でも五週間で飲料水の基準を上回って検出されました。屋外に置いたものでは二カ月で藻が生えました。

地震防災センター だより

★展示施設が増えました 地震防災センターの一階展示コーナーに新しい展示施設が加わりました。展示のテーマは「防災資器材と非常持出品の準備」大規模な地震が発生する場合に備えて、家族構成を考えて最低限の非常持出品をあらかじめ家族で話し合い準備しておくことが必要です。このコーナーでは、トランジスタラジオ、懐中電灯、救急薬品、非常食料、下着、タオル等の非常持出品や家



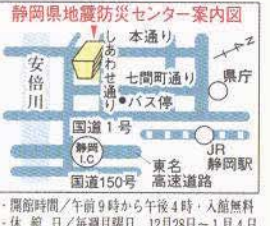
より充実した展示コーナー

具等の転倒防止器具、携帯トイレなどの防災グッズ、さらに自主防災組織として備えておきたい可搬ポンプ、油圧ジャッキ、ろ水機、大型炊飯器、発電機など、防災資材の实物を展示して

備蓄しましょう。 ※今回のテストでは伝染病の指標とされる大腸菌群が検出されたものはありませんでした。 お問い合わせは県衛生環境センター(電話054-(2115)7684)へ。

事業所の皆さんへ

阪神・淡路大震災での教訓から、地域防災への事業所の役割がクローズアップされるようになり、特に平日の昼間に大災害が発生した場合、事業所の組織力や施設は大きな救援パワーとなるはず。そこで県や市町村は、事業所の皆さんに、ぜひ「地域との連携を進めてくださるよう」お願いしています。こうした呼び掛けに答えて、新たな取り組みを始める事業所も増えてきました。例えば、医薬品製造業の「日



静岡県地震防災センター案内図

「自らの命は、自ら守る」が防災の基本です。もう一度各家庭や自主防災組織で、防災資器材と非常持出品の再確認をして大規模地震に備えましょう。 ◆公開講座のお知らせ 地震防災センターでは、宏観

標語入選作

- 津波対策推進月間用 優秀作 身につけよう 津波の常識 避難の知識 津波避難 無視しません! 津波警報 即避難
- 総合防災訓練用 優秀作 参加して あなたもひと役 防災訓練 訓練は みんなを守る 第一歩 防災は 不断の訓練 とっさの機転
- 地震防災強化月間用 優秀作 ひろげよう 日頃の訓練 わが家の備え 生かそうよ 日頃の備え 心がけ
- 地域防災訓練用 優秀作 あなたから 地域にひろげる 自主防災 訓練で 学ぶ防災 地域の輪 自主防災 地域の協力 大きな力
- 本ロシニ 袋井工場は、隣接する市立可睡寮老人ホームと協定を結んで、災害に備えています。昨年の総合防災訓練では、従業員を支援にホームに派遣して、避難誘導などを訓練しました。

編集後記

今号は、地域にある防災施設や器具等を紹介してみました。ふだん、散歩や遊びで利用している公園を、改めて防災の目で再発見してみてください。防災倉庫の中は、地域ごと、備品が異なります。訓練のとき、皆さん自身で確認してください。地震に備える基本は家庭内対策、向こう三軒両隣、地域防災が何より重要です。お互い協力し合い地域の総力で災害を最小限に食い止めましょう。今年は九月一日の「防災の日」が日曜日になりました。あなたの参加が、地域の防災力を確実に高める

平成八年度の地震防災標語入選作を決めました。優秀作はキヤンペン標語として使われます。

自主防災

地震災害に備えるための
コミュニケーション紙

JISHU-BOUSAI

no. 35

●編集・発行／静岡県自主防災組織活動推進委員会 ●発行所／静岡県地震対策課 TEL.054-221-3592

平成8年(1996年)11月1日



住民が協力して崩壊家屋から救出
(1月18日神戸市灘区)＝神戸新聞社提供

1995年1月17日、阪神・淡路大震災
死因の約9割が倒壊建物による圧死、
窒息死。じん速な救助が必要だ



倒れた家屋から被災者を運び出す。(1月17日、神
戸市灘区)＝神戸新聞社提供



1923年9月1日、関東大震災
火にのまれた東京の中で
奇跡的に燃え残った町がある

11月は地震防災強化月間

ひろげよう 日頃の訓練 わが家の備え

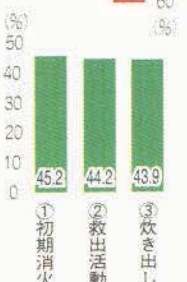
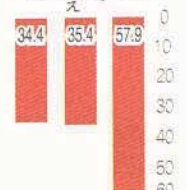
阪神・淡路大震災等で知らさ

今年度の県政世論調査が七月に実施され、このほど結果が公表されました。このうち地震に関して、「大地震発生時に心配なこと」の項目では、火災の発生が五八％、電気、ガス、水道の途絶え三五％、建物の倒壊三四％と高くなっています。また、「地震発生時に実行したいこと」の項目では、初期消火活動が四五％と最も高く、次いで、救出活動四四％(うち男性六一％、炊き出し四四％)うち女性七十％)の順となっています。

大地震が起きたら

心配なこと

- ① 火災の発生
- ② 電気、ガス、水道の途絶え
- ③ 建物の倒壊



実行したいこと

れた救出活動の重要性と初期消火の大切さを今回特集しました。

昨年の阪神・淡路大震災では死者が約六千三百人に上りました。その死因の多くが家屋の倒壊などによる圧死、窒息死でした(詳細は2面)。しかし、淡路島の北淡町では、日常の住民どうしのコミュニティーが大きな力を生み、倒壊家屋の下敷きになった生き埋め者を地元消防団と近隣の住民によってすべて救出しています。

また、大正十二年九月一日午二時時間以上も断続的に続いた火との闘いのあと、最大の危機は翌二日の午後三時でした。これまでで一番強い火の手が襲ってきたのです。住民に残された気力と火力との激闘は、さらに八時間あまりを要し、とうとう人々は耐え抜きました。

たび重なる江戸の大火にも燃えなかった町の人々の自信と結束力が、この未曾有の大災害にも生きていたのです。

十一月は地震防災強化月間です。北淡町長の講演など様々な行事が予定されており、我が家の地震対策を今一度見直すとともに、十二月一日(日)は、又地帯で地域防災訓練が行われます。積極的に訓練に参加しましょう。

前十二時五十八分、関東大震災が起きました。がれきと化した東京の街をなめ尽くすように、猛火が燃え広がるなか、奇跡的に焼け残った町がありました。神田の佐久間町と泉町です。バケツリレーという住民パワーが町を救ったのです。地震発生と同時に各地で上がった火の手は、再三再四この二つの町にも迫りました。そのつど、数百人の町民は老いも若きも加わって必死のバケツリレー。精も根も尽き果て、動けなくなってしまう町民が続出したと伝えられています。



TO PROTECT YOUR LIFE IN AN EARTHQUAKE

地震から命を守るために

火の始末

- 火を消す
- ガスの元栓を閉める
- 火を使う時は、そばにいて十分注意する

불조심

- 불을 끈다.
- 가스관을 잠근다.
- 불을 사용할 때는 옆에 있으면서 충분히 주의한다.

火的处理

- 灭火
- 关上煤气的总停止旋塞
- 用火时, 请留在火旁充分加以注意

Fire Prevention

- Put out fires
- Close gas stopcocks
- When using a fire, stand beside it and pay attention.

Previna incendios

- Apague cualquier tipo de fuego
- Feche tornerias de gas
- Ao uaar fogo, mantenha-se em frente, vigiando.

Prevenção contra incendios

- Apague el fuego
- Cierre la llave de cierre de gas
- Cuando utilice fuego, mantengase cerca, vigilando.



지진에서 생명을 보호하기 위하여

从地震中维护性命的安全

PARA PROTEGER SUA VIDA NUM TERREMOTO

Para proteger su vida en un terremoto

震災時をイメージしてより実践的な訓練を!

救

阪神・淡路
大震災で亡く
なつた約五五〇〇名(関連)

死を除く)の約九割が家屋の倒壊などによる圧死・窒息死でした。

また、死者の九割が発災当日に死亡しており、倒壊家屋から助け出した人の六割は地域の住民でしたが、救出活動に参加した人は四分の一程度で、地域での組織的な活動はほとんど行われませんでした。

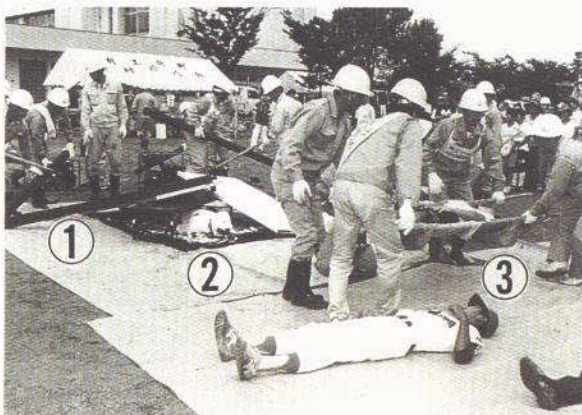
東海地震の被害想定では、四三万棟の住家が全半壊等被害を受けると予想されています。阪神の被災現場では、せまり来る大災、余震、交通途絶など悪条件のなか、素手で立ち向かわなければならなかったケースも多く、「せめて一本のポールがあれば」という声も多く聞かれました。

またテコに使う鉄パイプや角材、ジャッキなどの調達に走り回つた苦い経験をした人も多くいました。

救出現場では、これらの道具や、ノコギリ、ハンマー、鉄線バサミ、ペンチ、ロープなどがより早い救出に大いに役に立ちます。ふだんから玄関先等身近に置いておくか、いちばん近い保管場所を確認しておくなどの備えも大切です。

また、自主防災組織による組織的な救出活動が開かれ、大型ボール、大型ハンマー、チェーンソーなどの機材の投入が可能になれば、作業は大きく前進するでしょう。

救出の難かしい現場では、消防機関等に出勤を要請し、生き埋め場所の情報等を提供しながら救出作業を手伝います。



①ノコギリ等で廃材を切断する訓練。チェーンソーの使用訓練は安全確保のため別の安定した場所で行う②テーブルの下に人が交代でもぐり生き埋め役をやる。危険を避けるため人形で③毛布等を利用したタンカによる救出訓練(浜崎市有玉北町新村地区自主防災隊)

防災機関との連携とあわせて地域内にある防災資機材や使いこなす技術者を把握し、防災人材台帳、資材一覧表などを整備しておくことも大切です。

また、地域の事業所との連携も大きな力となります。家具の固定などの家庭内対策とともに地域の防災訓練に積極的に参加しましょう。

倒壊家屋から救出



- 声を掛け安心させる
- 人数を確認する
- 補強角材は太さ10センチ以上
- 自動車のジャッキなど活用
- 余震に注意

①可燃物

この三つがそろわないと火は起きません。いかにえれば、このうちの二つの要素を取り除けば消火ができるのです。

①燃えるものを取り除く
②ドアや窓を閉める、てんぷら鍋に火が入った時は濡れシートで覆うなど空気を遮断する。
③水をかけ熱をとる、などです。

炎が天井に達したら、もう初期消火の手に負える段階ではありません。すぐに屋外へ避難します。

火災が大きくなつたら、自主防災組織を中心に、大勢の人が集まって、消火または延焼拡大防止につとめます。

強風時には風向きをチェックを忘れずに、風下側の建物を優先して多量の水を掛けるようにします。また、いったん鎮火しても再燃しないよう地域内の見回りも自主防災組織の大切な活動です。

消火器で消す



- 姿勢はできるだけ低く
- 天井に燃え移ったら限界

防火

地震被害で恐ろしいのは火災です。関東大震災で亡くなった十万人余の犠牲者のほとんどは火災が原因でした。

まず、自分の家が火元にならないよう、日頃の出火防止対策が大切です。例えば

- ①ガスコンロやストーブなどの上に、燃えやすいものが落ちてこないか
- ②使い終わつたらガスの元栓は閉めているか
- ③アルコールや食用油などが棚の上に置いてないか

地震直後、身の安全を確保した後、火元の確認をします。火が出た場合、あわてずに初期消火を行います。また大声で火事知らせましょう。消火は時間との戦いです。いざという時失敗しないよう消火器を手に取って、実際の手順を訓練しておきましょう。

初期消火をあわてず正しく行うには、火がどうして燃えるかを知っておくことも大切です。

生活用テント・仮設トイレ設置訓練、避難所運営・体験宿泊訓練、仮設住宅設置や飲料水等避難生活支援訓練などが行われました。防災講座では、土山推進委員が講話を行い、屋外会議でも活発な意見の交換があった。

小山町会場では、警察消防、自衛隊、防災関係機関、町、自主防災会の連携した総合防災訓練が行われた。



九時のサイレンを合図に各自主防の方々がポンプを引いて、この連合隊の訓練現場に集合した。総勢二百名くらいだろうか。連合隊長の指揮のもと訓練に入った。すでに消防車、救急車も到着、用意された倒壊家屋からの救出が始まった。ある人はノコギリを使用し、また二つではボールとツル

ロープで消す



人、柄を持つ人で、ないように

ノブで消す

壁の合図をしっかりと合を確実に



中心と大災の



避難誘導班

危険箇所等を把握し、じん速、安全に避難場所まで誘導する



救助班

救出活動を行い、必要がある場合は消防機関などへ出勤要請をする



また二つではボールとツル



**小中生が参加
宿泊客避難も** **伊東**

伊東市では、九月一日の「防災の日」に地震の子知から発生、避難までを想定した防災訓練が市内全域で行われた。

今年はいずれの日とあって、市内の十九会場には、多くの小中学

**西から東から
自主防災活動リポート**

牛の参加が見られた。

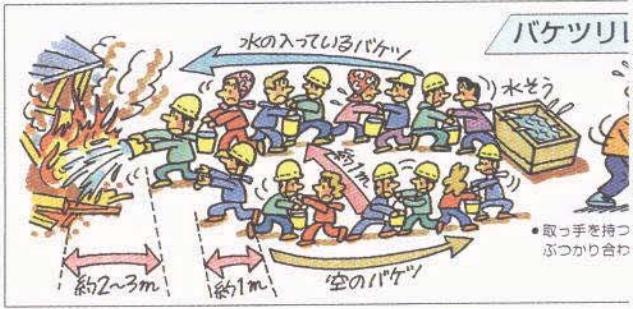
メイン会場では、消防署の特
別救助隊が電気カッターを使っ
て、倒壊家屋を切り、素早い動
作でけが人を救出する訓練も行
われた。

伊東温泉協同組合は、津波の
発生がないという想定で、ホテ
ルラウイエ川良と伊東港を会場
に宿泊客の避難訓練と海上脱出
訓練を行った。

(前田玉枝委員)

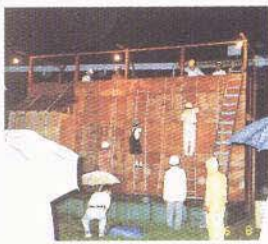
**大雨の夜間に
積極的な訓練** **富士宮**

「地震は不意に発生するはず」
富士宮市野中三区防災会では、取
組の大災害を教訓に、一人でも
多く参加、一人でも多く体験を



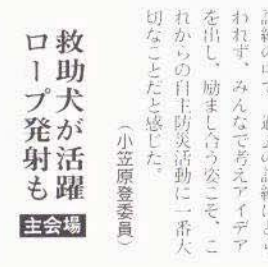
衛生救護班
負傷者の応急手当てを
行い医療機関や救護所
に搬送する

消防隊
自主防災組織
なり初期消火
警戒、防火広



と、九月一日の防災訓練を八月
二十四日夜間に計画した。たま
たま防災会長が建設業であるこ
となどから、区内広場に二階建
の建物を仮設、防災用品商社の
協力で各種ハシゴ、ロープなど
八組を準備し、リハーサルを実
施、安全にも万全を期した。

当日はあいにくの大雨だった
が百五十名余りの参加者は「雨
でも地味はくるんだ」と、二階
からの脱出避難に「一時間余り
自分自身が体で覚える」との
意気込みで、積極的に取り組ん
だ。マンネリ化が問われる防災



**救助犬が活躍
ロープ発射も** **主会場**

御殿場市、小山町を主会場に
九月一日、総合防災訓練が実施
された。

訓練の中で、過去の訓練にとら
われず、みんなで考えアイデア
を出し、励まし合う姿こそ、こ
れからの自主防災活動に一番大
切なことだと感じた。

(小笠原登委員)

御殿場市中央会場では、政府
調査団、建設省、海上保安庁、
自衛隊、日赤、警察、消防、防
災関係機関、県、市、自主防災
会の連携した総合防災訓練が行
われた。

特に今回は夜間の救出救助訓
練や他県との相互支援訓練、道
路公団と自衛隊が連携した東名
高速道路を利用した進出訓練、
救助犬による救出救助訓練等が
実施された。

御殿場小学校会場では、避難
中の使い方を主とした応急救護
など、地味ではあるが実践的な
訓練を行った。起震車による体
験も参加者全員が行った。

(前田欽吾編集長)

**肥料の空袋で
立派なタンカ** **井**

袋井市では九月一日、延久の
太田川河川敷で合同訓練を行っ
た。ここは昭和十九年の東南海
地震で大打撃をこうむったこと
らである。



静岡市の石田中町自主防災会
は九月八日、午前八時半過ぎか
ら一次避難地である登呂公園へ
集結。そのあと、やよい幼稚園
へ避難誘導して、園庭で訓練に
取り組んだ。

小型消火器での初期消火や給
食班による炊き出し、また三角

**幼稚園の庭で
実践的な訓練** **静岡**

自主防災会では、災害弱者避
難救護訓練、煙体験、水機操
作、仮設トイレ設置訓練、婦人
会による炊き出し訓練、消防隊
による可搬ポンプ消火訓練など
が行われた。

今回特徴のある訓練として
は、自衛隊の人命救助用シス
テム、日本ベトナムボランティア
協会による救助ロープ発射訓
練などがあった。



浜松市の八幡町では、行政指
導型でなく、住民こそで地域
に密着した訓練を実施した。

午前八時半、訓練本部が開設
され、情報の収集と事前準備。
午前九時、警戒宣言が発令され、
情報伝達のため携帯マイクで
住民に伝達、出火防止対策、落
下物の防止対策を呼びかけた。
午前九時半、地震発生。住民に
出火防止とともに避難するよ
うに呼び掛けると、避難誘導係
の指示により公営会館前に避難し

**地域密着型の
実践的な訓練** **浜松**

特に目をひいたのは農具部ら
しく肥料の空袋を使ったタン
カだった。さけないかと思っ
たが、そんな心配は無用で、見事
な搬送ぶりだった。

(角ヶ谷昇委員)

できて、一連の訓練が開始され
た。救急班によるタンカ搬送、
応急救護訓練がテキパキと行
われ、同時に日赤赤十字団によ
る応急炊き出しが始まる。避難
生活用山岳テントの設置も行
われた。

子供たち、婦人による消火訓
練も真剣に行われ、最後に消火
班により可搬ポンプでの放水訓
練が行われた。会場型訓練と異
なり、規模は小さいけれど、一
人ひとりが身につき実践的な訓
練だった。(小倉清隆委員長)

ごぞんじ ですか？ 震度階級が変わりました

十月一日から、揺れの程度を表す震度階級が変わりました。これまで0から7までの八階級だったのを十階級に広げました。具体的には、「震度6」が「震度6強」と「震度6弱」

に、「震度5」も「震度5強」と「震度5弱」にそれぞれ二分割されました。阪神淡路大地震などの教訓から、同じ震度でも被害の程度が違い過ぎ、適切な対応が取りにくいとの指摘があり、よりきめ細かい防災対策に役立てるため、今回の変更を行いました。また従来は、気象庁の担当者による体感観測も併用されていま

したが、震度計で自動的に計測した数値をもとに発表することになりました。また気象庁は発表された震度情報を有効に活用してもらうため、震度計で観測された震度と実際に発生する現象や被害との対応をまとめた「震度階級関連表」を新たに作りました。その一部を上に抜粋します。

従来 の震度	新しい 震度	人間	屋内	屋外
0	0	揺れを感じない		
1	1	屋内にいる人の一部がわずかに揺れを感じる		
2	2	屋内の人の多くが揺れを感じる。眠っている人の一部が目覚ます	電灯などのつり物がわずかに揺れる	
3	3	屋内の人のほとんどが揺れを感じる。恐怖感を感じる人もいる	棚の食器類が音をたてることがある	電線が少し揺れる
4	4	かなりの恐怖感。眠っている人のほとんどが目覚ます	つり物が大きく揺れ、食器類や書棚の本が落ちることがある	電線が大きく揺れる。歩行者が揺れを感じ、運転者も揺れを感じる
5	5弱	多くの人が身の安全を図ろうとする	つり物が激しく揺れ、食器類や書棚の本が落ちることがある	窓ガラスが割れて落ち、電柱が揺れる。アプロック塀が倒れる
5	5強	非常な恐怖を感じる。多くの人が行動に支障	テレビが台から落ちたり、タンスが倒れる	自動販売機や乗石が困難
6	6弱	立っていることが困難になる	未固定の重い家具の多くが移動、転倒する	かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損
6	6強	はわないと動けぬ	未固定の重い家具のほとんどが移動、転倒	補強されていないアプロック塀の大半が倒れる
7	7	揺れにほんろうされ、自分の意思で動けない	ほとんどの家具が大きく移動、飛ぶことも	補強されているアプロック塀が倒れることも

防災 センター だより

親子で楽しく防災教室 非常食料の試食も

な催しが行われ、子供たちでたいへん賑わいました。「地震映画会」「目出研究相談」「地震防災ポスター募集」などの



地震防災センターでは、夏休み期間中の小・中学生を対象に、「もう一度見直そう。わが家の防災対策」のテーマで様々な

催しが行われましたが、中でも「親子防災教室」では、多くの親子が楽しく地震防災を学びました。

の証明書を授与されました。参加した子供たちは、夏休みの一日を楽しく過ごし、良い思い出となりました。

地震体験コーナーで地震の怖さを体験した後、わが家の防災対策に役立つ「家族防災会議」の聞き方を勉強したり、地震防災クイズ大会や非常食料のシチュー、アルファ米の試食を行いました。

準備中です

県防災情報研究所が仮運用を始めたホームページの画面の一部

ホームページから自分の必要とする情報を自由に取り出すことが出来るのです。ホームページは企業が自社や自社製品、社や自社製品、大学や研究機関が研究成果の発表や情報交換に利用しています。中には地震防災の情報も含まれたホームページもあります。地震情報から防災対策のやり方までいろいろなホームページがあります。ぜひ一度ひらいてみて下さい。当研究所でも、皆さんに有用な地震防災情報の詰まったホームページを開設するため、現在準備を進めています。

パネル展や防災フェア 23日には自主防推進大会

11月は「地震防災強化月間」です。県内各地で表のようなイベントが計画されています。ぜひ参加して地震への心構えを新たにしましょう。

日時	行事	会場、行事内容など
11/1 (金)	街頭キャンペーン	主要駅前など
11/1~11/8	地震防災パネル展	県庁別館21階展望ロビー (11/1~8、11/22~30) 東部地域交流プラザ1F (11/5~10) 浜松総合庁舎1F展示ロビー (11/12~20)
11/5~11/10		
11/12~11/20		
11/22~11/30		
11/22 (金)	地震防災講演会 (県・気象台・県防災情報研究所共催)	静岡AOI会館講演、パネルディスカッション 講上判定会会長ら参加
11/23日 (土)	自主防災組織活動推進大会	県地震防災センター 知事表彰、局長表彰、北沢町長講演(ほか)
11/30 (土)	地震防災フェア	静岡市青葉イベント広場(ほか) 防災展、体験コーナー(ほか)
12/1 (日)	地域防災訓練日	県下各地

日頃の観測成果発表

県内9モデル高校

八年度県高校地震予知観測学習モデル校発表会が、八月七日県地震防災センターで開催されました。各学校とも観測レベルが高く、また市で実施した調査と自校調査との比較検討報告をするなど各校の特色ある大変興味深い発表会でした。各学校の発表

- ▽静岡東高「地震を聞く」
- ▽富士宮東高「富士川断層観測(測線の長さ観測・地震に対する意識調査)」
- ▽磐田北高「津波に関する研究II」
- ▽川根高「断層の放射能についての調査(その3)」
- ▽榛原高「振動源からの距離と振動の強さ」
- ▽神山高「地震波の測定とフィルター特性・自動気象観測の報告」
- ▽焼津中央高「水管傾斜計の記録に見られる傾斜速度の変化について」
- ▽農業経営高「防災に関する意識調査」
- ▽松崎高「温泉における深度と温度差について」

- ◇地震関係情報を公開している大学研究所等のホームページアドレス
- ◇科学技術庁防災科学技術研究所強震ネットワーク
http://www.k-net.bosai.go.jp/
- ◇地震調査研究推進本部
http://www.sta.go.jp/jishin/welcome.html
- ◇地震予知連絡会
http://www.gsi-mc.go.jp/YOCHIREN/JIS/ccephome.html
- ◇京大防災研究所地震予知研究センター
http://www.rccep.dpri.kyoto-u.ac.jp/main/HomeJ.html
- ◇東大地震研究所地震予知情報センター
http://www.weic.eri.u-tokyo.ac.jp/EIC/EIC_J.html
- ◇広島大・中田高教授
http://www.ipc.hiroshima-u.ac.jp/~tnakata
- ◇東京ガス
http://www.tg-net.co.jp/aics/home_pages/tgas/tama/quiz.html
- ◇北海道釧路広域行政組合(奥尻町を含む)
http://www.hakodate.or.jp/hiyama/earthqu/

自主防災

地震災害に備えるための
コミュニケーション紙

J I S H U - B O U S A I

no. 36

●編集・発行/静岡県自主防災組織活動推進委員会 ●発行所/静岡県地震対策課 TEL. 054-221-3592

平成9年(1997年)3月1日

阪神・淡路大震災から二年。被災地では、公共施設などの復興は着実に進んでいますが、今なお仮設住宅での生活を余儀なくされている多くの高齢者がいます。この間、静岡県自主防災組織活動推進委員会も、大震災の尊い教訓を生かすべく、「より実践的な行動を」を合言葉にさまざまな試みを行ってきました。みなさんの自主防災組織はどうでしたか。春は異動のシーズン、会長さん以下メンバー交代もあるでしょう。そこで今回は、県内外の自主防災活動を振り返り、年度の切り替えに向けての心構えなどにスポットを当ててみました。

いざに備え 気持ち新たに

県内には五〇六三の自主防災組織があり、ほぼ一〇〇%の組織率を誇っています。ただし、実際の訓練ぶりはどうでしょうか。昨年の県の調査では、訓練が年間一回以下の自主防災組織が二五%もありました。また各家庭に呼び掛けている家具類の固定も、県民の半数が実施していないのが実状です。

また昨年十月、川根町で起きた地震はプレート境界付近で発生したものと見て、関係機関の注視を集めています。県内には三〇五の観測機器があり、世界有数の観測網を備えています。が、東海地震や神奈川県西部の地震が「いつ来るのか」は大変むずかしい問題です。まさかには備え、今しておかなければならないことが、まだまだたくさんあります。

家庭では

- ▼進学・就職、仕事の異動など環境が変わります。改めて家族防災会議を開きましょう。
- ▼安否の連絡先
- ▼避難場所
- ▼平日の各自の行動予定を確認し、わが家の防災カード

自主防では

- ▼自主防委会長が町内会長を兼ねて、年度当初の見直しでは会長の職務を少し減らせるよう
- ▼補佐役の確保育成
- ▼市町村などが主催する防災委員研修への積極参加を図りましょう。
- ▼世帯台帳、人材台帳、要介護者台帳の確認
- ▼防災資機材の点検補充、防災地図の修正
- ▼なども忘れずに、「地域は地域で守る」は阪神・淡路大震災で改めて痛感させられた教訓でした。そのためには地域の現状をよく知り、それに合わせた防災

- ▼書き直しておきましょう
- ▼家具等の転倒防止
- ▼高い所に物を置いていないか
- ▼通路はふさがっていないか
- ▼非常持出品の点検
- ▼電池・水の交換
- ▼点検日、訓練日を記入した防災カレンダーを作るのもいいアイデアです。



事業所では

- ▼防災直後の自衛措置
- ▼自主防災組織との連携
- ▼関連会社との連携
- ▼交代制職場の訓練
- ▼イメージトレーニングも取り入れ、より実践的にお願います。平常時の備え、地域と連携した訓練活動が社会的責任と信用につながります。阪神・淡路大震災では、まさかと思われたビルが倒壊し、多くの犠牲者が出ました。建物の耐震診断、耐震対策をお願いします。
- ▼従業員への防災教育
- ▼設備の固定、落下防止
- ▼ガラスの飛散防止
- ▼食料、資機材などの備蓄が必要ですよ。

高齢者住宅では

- ▼各市町村では高齢者世帯を対象に
- ▼シルバー人材センターなどを通じた家具の固定事業のほか各種相談事業に取り組んでいます。ぜひご利用ください。
- ▼高齢者自身の対策としては
- ▼非常持出品を分け、軽くしておく
- ▼貴重品や薬などの一次的な非常時持出品とそれ以外の二次的な非常持出品とに分けて用意などの工夫が大切です。

より実践的な行動を

大規模な地震の恐ろしさを思い知らされたあの阪神・淡路大震災、その映像はいまなお多くの人々の脳裏に焼き付いていることでしょうか。しかしあれから二年、当初、痛いほど感じた防災への気構えも少しずつ薄れ、忙しい日々の中で、できれば避けたいし、信じてくれない気持ちがいまも残っています。しかし、防災意識を風化させていきません。洗剤つけたような臭気にまじってただようガス漏れのような匂い、身震いする緊張感、寒さ、余震の恐怖、恐ろしい被災地の

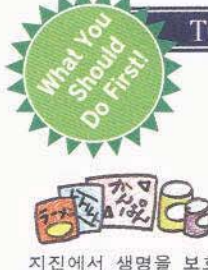
思い起こし、修繕場での冷静で的確な行動が自分に行きか、改めて問い掛けてほしいものです。

限られた時間と費用の中でも、積み重ねが効果を生まれます。静岡県民の二十年の積み重ねが、いま全国に注目されています。地震災害を忘れず、恐れず、可能な対策、点検、訓練を継続しましょう。

いまだからこそ、一層の強化、地域の連携、具体的な行動が必要なのです。

「より実践的な行動を」!

TO PROTECT YOUR LIFE IN AN EARTHQUAKE 地震から命を守るために



- 食料の備蓄**
- ふだんから非常食3日分を含む7日分程度の食料を準備しておく
 - 食料品の点検、入れ替えを忘れない
- 食料品の備蓄**
- 보통 때에도 비상식 3일분을 포함한 7일분 정도의 식도품을 준비해 둔다
 - 식료품의 점검과 보충을 잊지 않는다
- 지진에서 생명을 보호하기 위하여 从地震中维护性命的安全

- 食粮的储备**
- 素常储备下包括应急食品三天份在内的七天左右的食粮
 - 请勿忘记检查及替换储备食品
- Saving Food for Emergency**
- Maintain a seven-day food supply, including emergency rations for three days.
 - Be sure to periodically check and replace the food supply.
- PARA PROTEGER SUA VIDA NUM TERREMOTO** Para proteger su vida em um terremoto

- Armazene alimentos para emergência**
- Reserve um suprimento de alimentos para sete dias, contendo rações de emergência para três dias.
 - Certifique-se de verificar periodicamente e reabastecer o suprimento de alimentos.
- Reserva de alimentos de emergência**
- Reserve un paquete de alimentos para siete días, incluyendo raciones de emergencia para tres días.
 - Asegúrese de verificar y cambiar periódicamente los alimentos.

夜間救出

をテーマに 地域防災訓練

西から
東

自主防災活動リポート

夜の寒風の中 2千人が参加

河津



いざに備えて 中高生も真剣

湖西

湖西市では突然発生した地震を想定して、自主防災組織がいざという時に、出動活動ができるよう、家族ぐるみで中学生、高校生参加の訓練が実施された。

訓練会場の区民広場に六、七十人が集合して訓練が開始された。可搬ポンプ操作訓練、消火栓訓練、起震車による体験訓練、情報伝達訓練、中高生による炊き出し訓練、建物の下敷きになっている人の救出訓練、パールの取り扱い、ジャッキのかけ方など、市民も参加して、隊員が交代しながら技術の習得訓練を熱心に繰り返した。風が強くなり、真剣に訓練が行われた。(小笠原啓博委員長)

十二月一日の地域防災訓練に、河津町では地震は季節や時間等に関係なく発生することを念頭に、午後七時地震発生を想定した夜間訓練を行った。町内二十三の自主防災会が、避難訓練、初期消火訓練、救出マニエールによる班単位でのイメージ訓練、災害弱者の家庭巡回等、それぞれの地域に密着した訓練を行った。

初期消火を主眼にした防災会では、消防団や消防署の指導を受けて、寒風吹きすさぶ中を懐中電灯の明かりにとまどいながらポンプをつなぎ、放水訓練に取り組んだ。男性だけでなく女性も実施した。また災害弱者の確保と併せて家庭巡回を行った防災会もあった。二千人余の参加と各自主防災会が、地域に密着した重点項目の訓練と、夜間を想定した訓練の実施の意義は大きい。(河津町・後藤博康防災委員長)



熱海市では神奈川県西部の地震による被害を想定して十一月三十日夜、五つの自主防と関係機関が連携した初めての夜間防

イメージ②
1~2分
揺れがおさまった
火元を確認！初期消火！
家族は大丈夫！
危険地域はすぐ避難！

暗やみの中で 多彩な訓練

熱海



災訓練を実施した。暗やみの中で避難誘導や救出、初期消火、テントや仮設トイレ組み立て、倒壊建物の中から負傷者を救出する訓練など、多彩な訓練を行った。(前田孝昌委員長)

救出・救護を 熱込めて体得

富士宮

富士宮市の地域防災訓練は、今までの訓練を踏まえ、阪神・淡路大震災を教訓に防災会として、独自に訓練計画をたて、自主的に実施した。



救出を主体とした実践的な会場型訓練が行われ、参加者の防災意識の高揚が図られた。(前田孝昌委員長)

警察救助隊の 威力まざまざ

静岡

十一月三十日から十二月一日にかけて行われた、静岡市国道町内会の防災訓練には静岡南署の救助隊が、最新装備で参加してくれました。

まず、救助本部テント設置に始まり、倒壊家屋を想定して丸太をチェーンソーで切断、倒れたブロック塀にはエンジンカッターが威力を発揮した。また、空気を動力とした鋸や金庫を切断するためのカッターも披露された。

救出を主体に ヘリコも活躍

静岡



静岡市の長田西小学校では、長田中部連合自主防災会会員九百人余りが訓練を行った。特別参加した静岡市消防本部および自衛隊のヘリコプターを使って、倒壊家屋からの被災者の救出

れ、住民たちの関心を引いた。阪神・淡路大震災では、まず救助が自分たちで行う最初の仕事であったと聞く。自分たちの生命は自分たちで守らなければならないことである。当町内会でもこれからは、パールのこぎ、ジャッキ、スコップを各家庭に配備するよう奨励することとし、エンジン駆力の道具については町内に配備を考えている。

救出を主体とした実践的な会場型訓練が行われ、参加者の防災意識の高揚が図られた。(前田孝昌委員長)

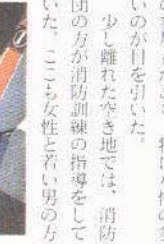
消火器の点検 期限切れ多数

小笠

十一月二十日、夜間訓練をするという中で、行政センターの所長さんと一緒に訓練会場に向かう。曲がりくねった夜の道を一時閉塞、ようやく目的地に着いた。

寒風吹きすさぶ中、消防団の方と二部役員の方が消火器の点検をしていた。たくさん出されていた器具はほとんど又点検ができていない。古くなって使用できないもの、各家庭にあっても不用品が大切に置いてあるのではなからうか。点検が必要だと感じた。

室内では看護婦さん二人が救護の講習をしておられた。多数の参加者があり、特に女性の多いのが目を引いた。少し離れた空き地では、消防団の方が消防訓練の指導をしていた。こちら女性と若い男の方



が多かった。風が強いたので火災警を使用して消火訓練をしていた参加者は住民の八割が七、六十人からいっしょになかったかと思う。あの寒さの中、若い人や女性が多数参加されて心強く感じた。(前田孝昌委員長)

救出を主体とした実践的な会場型訓練が行われ、参加者の防災意識の高揚が図られた。(前田孝昌委員長)

被災体験生々しく

北淡町長 功労者の表彰も

自主防推進大会

自主防災活動推進大会が十一月二十三日、静岡市の県地震防災センターで開かれ、阪神・淡路大震災の被災地、兵庫県北淡町の小久保正雄町長らが、震災体験を生々しく講演しました。



北淡町では約三百人の生き埋め者を住民つが

北淡町では約三百人の生き埋め者を住民つが、まいった百人の自主防災関係者らは、今なお奮闘している被災地町長さんへの報告を、まるでわがごとくのように熱心に聴き入っていました。

地震が起きた時、二階で寝ていた小久保町長は「地震とはまたくと思わず、巨大な鉄のボリ



ルが頭の上に落ちてきたようなショックだった」と苦時の様子を再現、自衛隊のヘリコプターから自分の町を見た時は「町は滅びた」と思ったそうです。

救出活動では「地線、血線が強く、この部屋にだれが寝ているかまで分かっていたので、最短時間で救出することができた」と、日ごろの近所つきあい

の通り(敬称略)。

【優良自主防災活動表彰】

▽団体功労表彰 沼津市・第一区 自主防災会

▽個人功労表彰 西田典夫(東伊豆町)前田長枝(熱海市)齊藤住由(沼津市)土原友喜(裾野市)山本六郎(焼津市)寺田政

四地区西連合自主防災会

▽団体功労表彰 熱海市・和田木 自主防災会 三島市・夏梅木 自主防災会 富士宮市・野中三 区 自主防災会 静岡市・水落町一 区 自主防災会 焼津市・第十一 区 自主防災会 中川町・久保尾 区 自主防災会 福田町・七番組 自主防災会 佐久間町・中部区 自主防災会

▽個人功労表彰 伊藤藤(藤枝)西 本功(藤枝市)

【防災船名表彰】

▽最優秀賞 一希望二山吉 弘、有馬裕基、井木桂子(静岡 市)日下治夫、菊池威彦(東京 都)佐藤重和(長泉町)小池順、 村松達雄(浜松市)服部祐佳(濱 水市)中村せつ子(富士市)岩

十二月一日の地域防災訓練を前に、伊豆県行政センターは十一日二十日、自主防災組織リーダー研修会を松崎町環境改善センターで開いた。

研修会には、松崎町、西伊豆町、賀茂村から各自防災会のリーダー九十八人が出席、県防災情報研究所客員研究員の川端信正さんの講演と、西伊豆広域消防署職員を講師にした震災時の生き埋め者の救出と搬送についての講習を受けた。

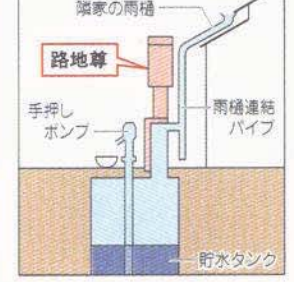
川端さんは、川根町の地震活動について地震学者が注目している点を指摘、また阪神・淡路大震災による倒壊した建物の被害や特徴などを説明した。家具の下敷きになって、天井が落下する、テレビが飛ぶという怖さの実例をあげ、最低の条件として

失したと報告されていました。

東南海地震は昭和十九年十二月七日午後一時三十六分ごろ発生、震源地は志摩半島東南沖でM(マグニチュード)7.9、愛知、三重、静岡に大きな被害が出ました。

敗戦濃厚となっていた当時、報道は厳しく検閲され、初日の新聞には小さい記事が載っただけで、当地域以外の人々は、大きな被害の状況を知ることができませんでした。これは、戦害にあえく国民の動揺を防ぐためであったと思われる。(野正町副編集長)

防災アイデア拝見



江戸情緒たっぷりの雨水タンク

東武東上線の向島で見つけた現版の「天水おけ」。実はこれ、なかなかユニークな防災設備なのです。

だんは広場になる路地を導き出すという気持ちで込められた町のシンボルです。

民家の屋根に降った雨水を簡単に浄化して地下のタンクに貯め、いざという時の水源にして

います。収納箱には、消火器とバケツが備えられています。汲み上げろ栓気には、昔ながらの「手押しポンプ」を使い、ポンプの下には水鉢が置かれ、金魚が飼われています。これは飲

料水が必要となった時、飲めるかどうかを判断するためだそうです。

かつて江戸の花といわれた火事に備えて、町の顔に欠かせぬ存在だった天水おけ。その役割を現代にふみかえらせた路地尊には、い「たん災害が起きたら住民こそぞ立ち向かってきた、下町の子の心意気が脈々と息づいています。」

「関東大震災より大きい」

昨年十二月六日、明治後期から二次大戦終戦までの衆議院秘密会議事録が公開され、その中で昭和二十年一月九日の議題に、東南海地震の被害状況が報告されていたことが分かりました。それによると東南海地震は、二関東大震災より大きい」と指摘され、被害は「静岡、愛知、三重の三県に及び、死者九十七人、行方不明二十七人、建物全壊三万四千二百三十三棟、重傷者一萬七千四百三十三名、軽傷者一萬七千七百三十三名」となると、津波は七・五倍という大波で、海岸

戦時の国民、知らされず

東南海地震で 衆院秘密会議事録

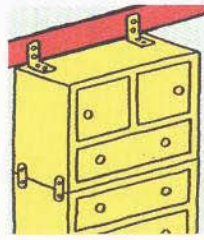
上山梨町(現袋井市)の被害(昭和19年12月10日、林令三氏撮影)

東南海地震は昭和十九年十二月七日午後一時三十六分ごろ発生、震源地は志摩半島東南沖でM(マグニチュード)7.9、愛知、三重、静岡に大きな被害が出ました。

家主さん、不動産業の皆さん

家具の固定にご協力を

阪神・淡路大震災では、死者負傷者が五万人を超える大惨事となりました。その死亡原因の大部分は家屋の倒壊であり、負傷の原因の半数は家具の転倒によるものでした。



県ではこの教訓を生かすため「静岡県地震対策推進条例」を制定し、この中で、県民の責務として、家具の固定等の家庭内対策の実施を規定しています。家具の下敷きになることは、直接死傷の原因となるほか、延焼火災や津波からの逃げ遅れによる死亡につながります。また、病院、医師、看護婦の不足が予想される大震災時に

は、家具を固定しないことによる負傷者が多数発生することにより、他の負傷者の医療の機会を阻むことにもなります。このように家具固定等の家庭内対策を県民が自主的に実施することが大切ですが、阪神・淡路大震災の約一年後に県が実施した地震についての県民意識調査では、家具固定を実施済みのお宅は、四五・三％で、まだ半数以上の世帯が未実施でした。

その理由の一つとして、「借家だからできない」(一〇・二％)があげられています。自分の家でない場合は家主の承諾等難しい問題を含んでおり、現に固定のため家賃が高くなったとして賠償金を徴収された事例が報告されています。

家具の転倒防止対策は被害を最小限度に止めるために県民が行うべき最低限の責務であり、これをより推進していくうえで、建物の貸借、管理、仲介

など建物の貸借に係る皆様方のご理解とご協力は不可欠であります。つきましては、次の事項について皆様方のご協力をお願いいたします。

- (一) 家具の固定は入居者の生命の安全につながる重要な事項ですから、借家人・借間人が家具を固定できるように協力をお願いします。
- (二) 金具等の取り付けにより、鴨居等に木ネジ等の跡がつくことを理由に許可料や賠償金等を徴収しないようお願いいたします。
- (三) 賃貸借契約書に前記の趣旨について明記するようお願いいたします。

(四) 貸家・貸間を新築される場合は、収納壁式家具または付鴨居等を設けるなど地震防災に配慮した内部構造とするようお願いいたします。

家具の固定が促進される環境づくりにご協力をお願いいたします。(県地震対策課・都市住宅部建築課)

イメージ④
10分~数時間
協力して
消火、救出
助け合いの心で！
自主防災活動を！
漏電、ガス漏れ、
余震にご注意！

キミとボク「ベルトしめた」が愛ことば

制定し、この中で、県民の責務として、家具の固定等の家庭内対策の実施を規定しています。家具の下敷きになることは、直接死傷の原因となるほか、延焼火災や津波からの逃げ遅れによる死亡につながります。また、病院、医師、看護婦の不足が予想される大震災時に

は、家具を固定しないことによる負傷者が多数発生することにより、他の負傷者の医療の機会を阻むことにもなります。このように家具固定等の家庭内対策を県民が自主的に実施することが大切ですが、阪神・淡路大震災の約一年後に県が実施した地震についての県民意識調査では、家具固定を実施済みのお宅は、四五・三％で、まだ半数以上の世帯が未実施でした。

冷蔵庫の固定 忘れないうで

阪神・淡路大震災の時、私は大阪に住んでおりました。幸い家庭電気製品が一部壊れた程度の被害で済みました。修理に

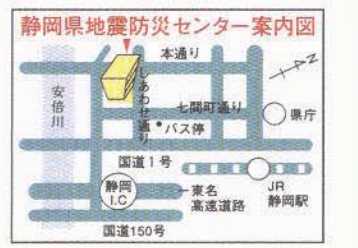
冷蔵庫の固定方法は取扱説明書などに記載されています。この意見、ご感想をお寄せください。(〒412-0100 静岡市追手町九一六 県庁地震対策課内事務局)

児童防災教室 みんな来てネ



学校がお休みの第4土曜日に、地震防災について勉強してみませんか。館内の説明や、地震・消火・避難の各体験コーナーにチャレンジしたり、津波を実感するコーナーもあり、2階なまざりコーナーではクイズ大会も行います。

日時 3月22日(土) 午前10時30分から正午まで
対象 小学4、5、6年生とその保護者
申込み 電話で受け付けます。お気軽にどうぞ。定員50人で締め切り。
☎054(251)7100



行政・自主防・学校 三者が連携 パネル討論

静岡市の教頭会

静岡市の教頭会は、十二月六日、行政・自主防・学校の代表者によるパネルディスカッションを開催しました。阪神地区では、震災後多数の住民が学校に避難し、そのままだけを始めた。このような状況を静岡でも予想されます。教頭会としても、いざという時のために、各学校において十分な対策をとっておく必要があります。それには行政や自主防との連携がもっとも重要であると考え、このような企画を実施しました。

- 生きるための防災 大地震が起これば、自分たちはどう行動すべきか、家族と口頭から話し合ってください。もしものときの連絡先、問い合わせ先と避難場所の確認は、その基本といえるものです。また安否の確認は電話の通じやすい県外の親戚、知人に頼みましょう。(小倉清隆委員長)
- 地震予知とは、ことが起こると「救急隊を呼ぶ」のが生活習慣にある。が、地震等同時多発災害の際は、救急隊も道路も被災し、行動は制限される。自分と家族を守るには、ことが起こったとき発生するであろう状況と、その時何をなすべきか予め知って、準備しておくのが、「地震予知」といわれる。(小笠原登副委員長)
- 学校との連携 静岡市では小中学校教頭会研究推進委員会の呼び掛けによって、自主防災組織との検討会が開催され、学校と自主防災組織の区割りや、収容避難所となった場合の連携等について話し合いの場を持つよう、実践的な行動に移行している。(前田欽吾編集長)
- いざに備えて 常に訓練を積み重ねて、いざという時に備えよう。陸上競技の幅跳び、三段跳びも助走があつてこそで、いきなり跳躍しても跳べない。身につく技術は練習(訓練)より生ずる。東海地震に備えて常に訓練を。(野沢正司副編集長)
- 大きい女性の役割 委員を受けて間もなく三年になります。委員の皆さんに助けられているんだ勉強ができました。地震が日中起きたら、それは女性の役割が大きいのです。日頃から隣近所や婦人会などで防災について話し合っておきましょう。(前田玉枝委員)
- ツケを最小限に 阪神淡路大震災では初日の生き埋め者が死者の約九割を占めたという。自分の命は自ら守る」とは、自分と家族を守る基本原則である。それなくして地域を守ることはできない。二十年余の訓練で叫び続けてきたものは何か。家具固定、耐震診断、備蓄等々。予測できない地震被害のツケを最小限にとどめたい。(堤賢委員)
- 防災とコミュニケーション この町でもコミュニケーションの少ないのは当然のようになってきた。マンション、アパートの所在地では皆無に近いと思われる。この垣根を取りのぞいてくれたのが、東京下町の。路地帯で、心の交流と早期消火を兼ねた住宅地。(角ヶ谷昇委員)
- 大きい路地帯の存在 黒田区一帯町地区において先人の知恵を生かした路地帯の存在は大きい。防火用水としての役割以外に、住民に火災の恐ろしさの警告を発し、「火を出さない、もらわない」を毎日意識させている。そして防災街づくりの中心になった。(服部富子委員)
- 負けられない 県推進委員になって一年。町内会、地区会、市役所、県の会議、研修会出席と多忙な一年であった。自分の事ながら、会長職務の分散、代理者が必要、防災も同じ、今地域の総合力が大地震に試されようとしている。絶対に負けられない。(原川治男委員)

委員から一言

静岡市の教頭会には、十二月六日、行政・自主防・学校の代表者によるパネルディスカッションを開催しました。阪神地区では、震災後多数の住民が学校に避難し、そのままだけを始めた。このような状況を静岡でも予想されます。教頭会としても、いざという時のために、各学校において十分な対策をとっておく必要があります。それには行政や自主防との連携がもっとも重要であると考え、このような企画を実施しました。

「自主防災」新聞第25号～36号発行に携わった自主防災組織活動推進委員

氏名	所属自主防災組織等（委員就任時）	推進委員担当期間
守屋 貴徳郎	掛川市防災指導員	平成3.4～平成4.3 委員 平成4.4～平成5.9 副委員長 平成5.10～平成7.3 委員長
岩崎 秀美	沼津市防災指導員会相談役	平成3.4～平成4.3 委員 平成4.4～平成5.10 編集長 平成5.10～平成7.3 副委員長 平成7.4～平成8.3 委員長
鈴木 吉久	賀茂村浜川東自主防災会	平成4.4～平成7.3 委員
前田 欽吾	静岡市連合町内会防災対策委員長	平成4.4～平成5.10 委員 平成5.10～平成8.3 副編集長 平成8.4～平成9.3 委員長
増田 和代	藤枝市岡出山自主防災会防災委員	平成4.4～平成5.3 副編集長 平成5.4～平成5.10 編集長 平成5.10～平成8.3 委員
小倉 清隆	浜松市八幡町自主防災隊長	平成4.4～平成7.3 委員 平成7.4～平成8.3 副委員長 平成8.4～平成9.3 委員長
小笠原 登	富士宮市神立区自主防災会防災委員長	平成5.4～平成8.3 委員 平成8.4～ 副編集長
前田 玉枝	伊東市婦人連盟幹事	平成6.4～平成9.3 委員
野沢 正司	元天竜市下阿多古地区自治会連合会長	平成6.4～平成8.3 委員 平成8.4～ 副編集長
服部 富子	日本赤十字社静岡県支部参事	平成6.4～平成9.3 委員
堤 實	西伊豆町築地自主防災会長	平成7.4～ 委員
角ヶ谷 昇	元袋井市方丈自主防災連合防災隊長	平成7.4～ 委員
土山 和雅	元三島市加屋町自主防災会長	平成8.4～平成8.12 委員
原川 治男	焼津市第5自主防災会長	平成8.4～平成9.3 委員

「自主防災」新聞にご投稿を！

あなたの地域の自主防災活動、ユニークな防災訓練、あなたの地震体験や地震対策に関するアイデア、意見等をお寄せ下さい。



編集・発行／静岡県自主防災組織活動推進委員会
発行所／〒420 静岡市追手町9-6
静岡県総務部防災局地震対策課
電話 054-221-3593
FAX 054-251-3252